

次代を担う子どもを安心して 育てることのできるまちづくり

平成26年12月21日(日)

川崎市

本資料の構成

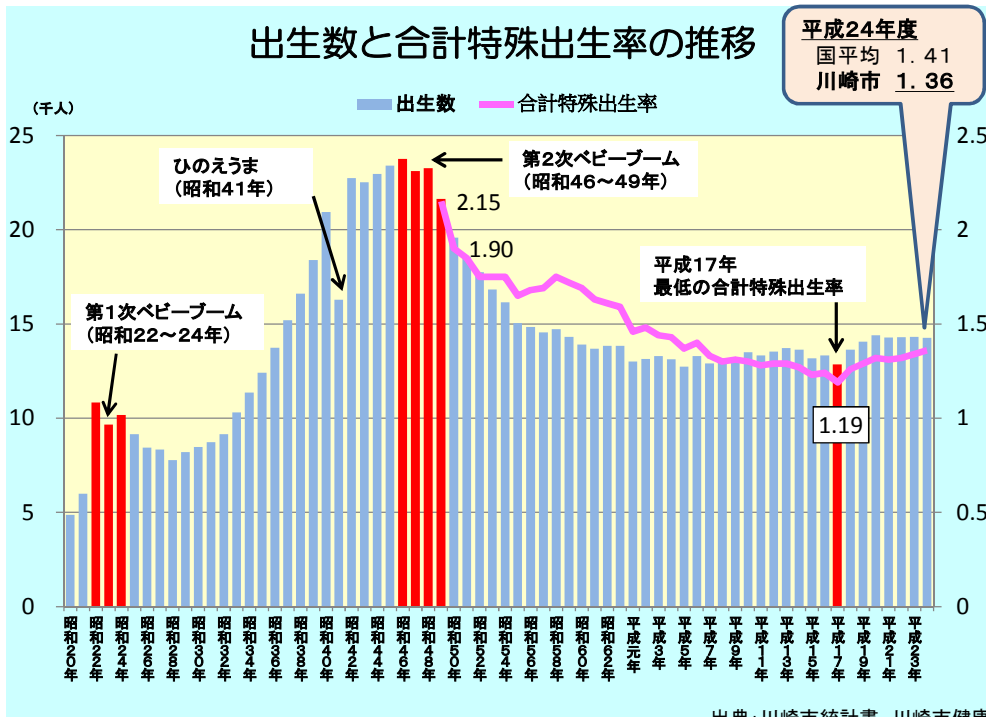
本資料の構成(目次)

- | | |
|--|---|
| <p>1. 子どもが健やかに成長する社会のしくみづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ①出生数の減少と合計特殊出生率の低下 ②希望する子どもの数と子どもを持つ条件 ③育児休業制度の着実な定着 ④M字カーブの底の上昇 ⑤核家族で共働きをする世帯の増加 ⑥子育てへの負担感 ⑦就学前児童の養育状況 ～子育て支援サービスの利用ニーズ～ ⑧高まる保育ニーズと待機児童ゼロの実現 ⑨1歳児からの保育ニーズの高まりと定員の差 ⑩保育サービスの利用と負担の状況 ⑪わくわくプラザの利用の意向 ⑫わくわくプラザの定期登録者数の推移 ⑬子どもの医療費と受診率 ⑭小児医療助成費と対象者の推移 ⑮児童虐待相談・通告件数の増加 ⑯相談通告の経路と虐待者 ⑰障害児の相談・診察・訓練等の状況 <p>2. 夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く</p> <ul style="list-style-type: none"> ①産業界から求められる人材像 ②OECD 国際成人力調査の結果(PIAAC:ピアック) ③「PISA(ピザ)調査」の概要 ④平成26年度全国学力・学習状況調査の結果(都道府県別正答率等) ⑤「自尊心」の国際比較 ⑥本市の「自尊心」「将来の夢、目標」を持つ子どもの割合の推移 | <ul style="list-style-type: none"> ⑦平成26年度市学習状況調査の結果(「授業が分かる」子どもの割合) ⑧市学習状況調査の結果(「授業が分かる」子どもの割合) ⑨本市の「新体力テスト」結果の全国との比較 ⑩学校種別の学習費総額、構成比、公私比較 ⑪小中学校における就学援助認定者数の推移 ⑫「国際教員指導環境調査(TALIS【タリス】)」の結果概要 ⑬学齢人口及び高齢人口の将来推計 ⑭校舎等の老朽化 ⑮建替えにかかる多額の費用 ⑯校舎等の計画的な修繕による「長寿命化」 ⑰「長寿命化」と併せて行う校舎の「再生整備」 ⑱「長寿命化」「再生整備」により、効果的・効率的に教育環境を整備 ⑲新たな取組の例・「地域の寺子屋」の開講 <p>3. 若者が社会的に自立し、幸せに生きていくために</p> <ul style="list-style-type: none"> ①若い世代の人口の減少 ②高校・大学の卒業者の状況 ③生涯未婚率の上昇 ④若い男女の結婚への意識 ⑤若年層の非正規雇用率 ⑥若年層のフリーターの状況 ⑦若年無業者(ニート)の状況 ⑧ひきこもりの状況 ⑨子ども・若者の育成支援の推進 ⑩本市における子ども・若者の育成支援 |
|--|---|

1. 子どもが健やかに成長する社会のしくみづくり①

出生数の減少と合計特殊出生率の低下

- 平成19年以降、出生数が1万4千人台で推移している。
- 合計特殊出生率は、平成24年で1.36と国の平均より低い水準にある。

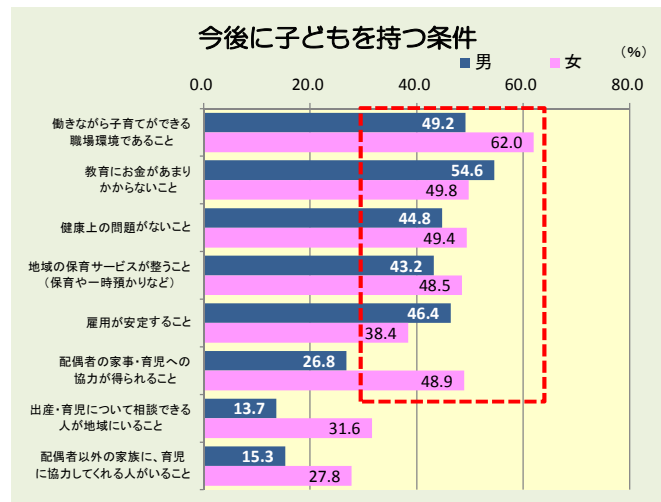
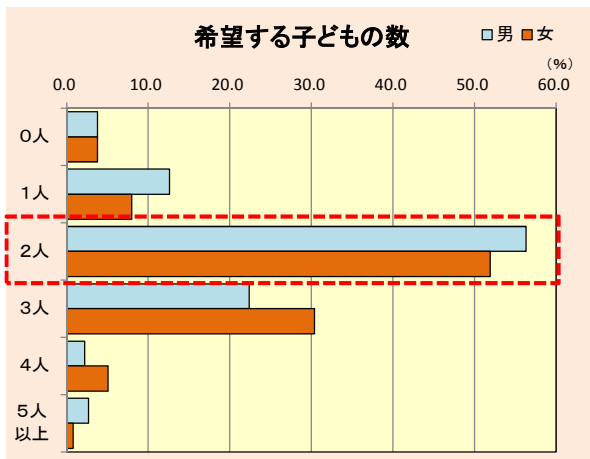


1

1. 子どもが健やかに成長する社会のしくみづくり②

希望する子どもの数と子どもを持つ条件

希望する子どもの数は男女とも2人が多いものの、合計特殊出生率は国平均が1.41となっていることから、希望と現実の間に差が生じている状況にある。



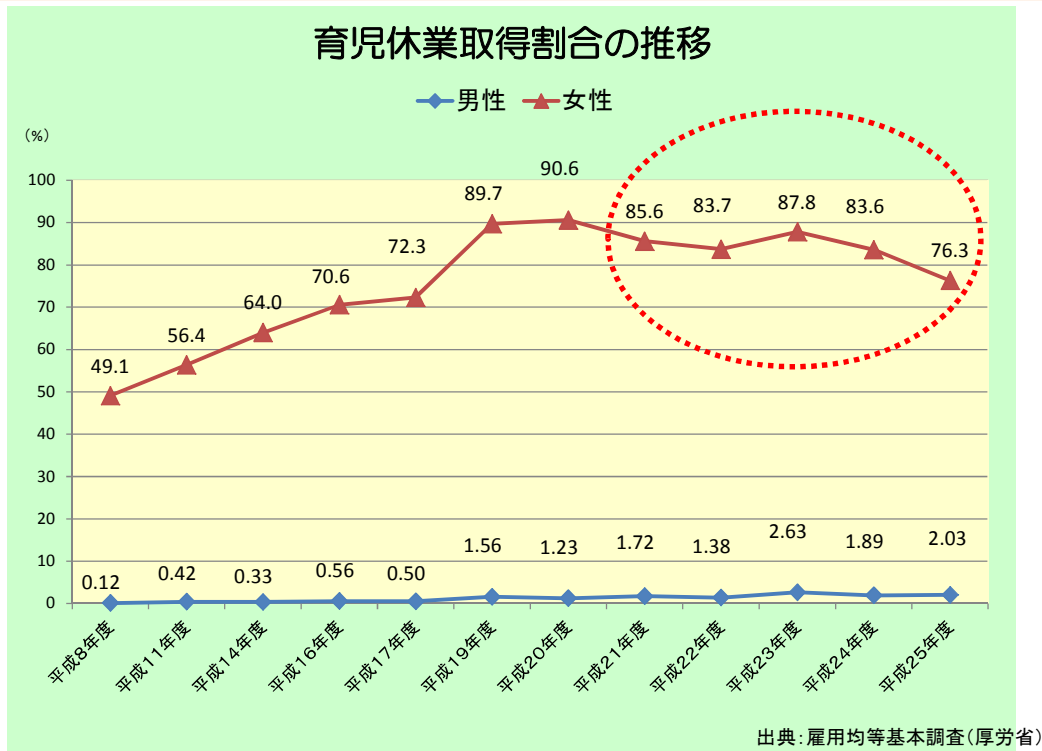
出典：家族と地域における子育てに関する意識調査(内閣府)

2

1. 子どもが健やかに成長する社会のしくみづくり③

育児休業制度の着実な定着

女性の育児休業の取得率は、平成20年まで上昇しており、その後も75～85%程度で推移している。男性の育児休業の取得率は2%まで上昇しているものの依然低い状況にある。

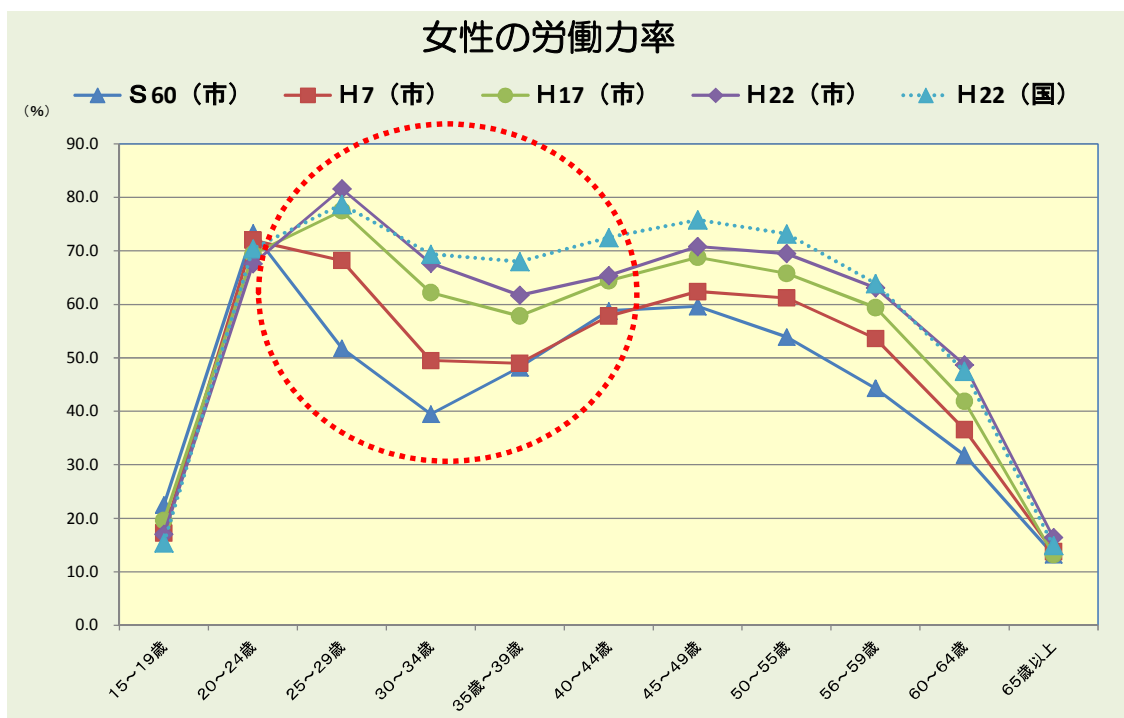


3

1. 子どもが健やかに成長する社会のしくみづくり④

M字カーブの底の上昇

結婚や出産を機に女性が仕事を一時辞める“M字カーブ”の底は年々上がってきているが、さらなる上昇を目指し、就労と出産・育児が両立できる社会の実現が求められている。

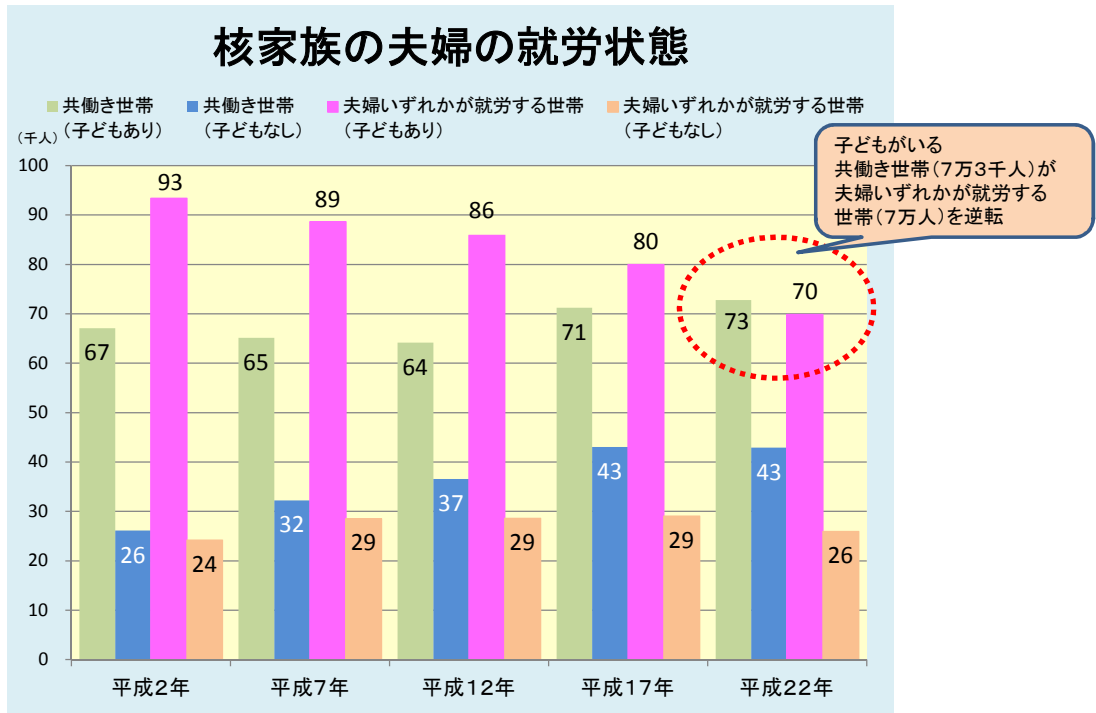


4

1. 子どもが健やかに成長する社会のしくみづくり⑤

核家族で共働きをする世帯の増加

核家族で共働きをする世帯は年々上昇傾向にあり、平成17～22年に、子供を持つ世帯で共働き世帯が、夫婦いずれかが就労する世帯を逆転している状況にある。

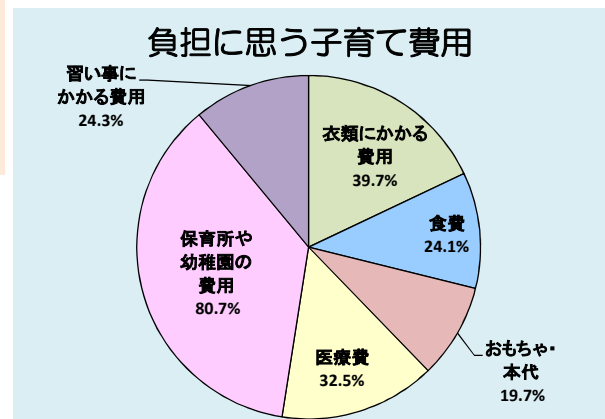
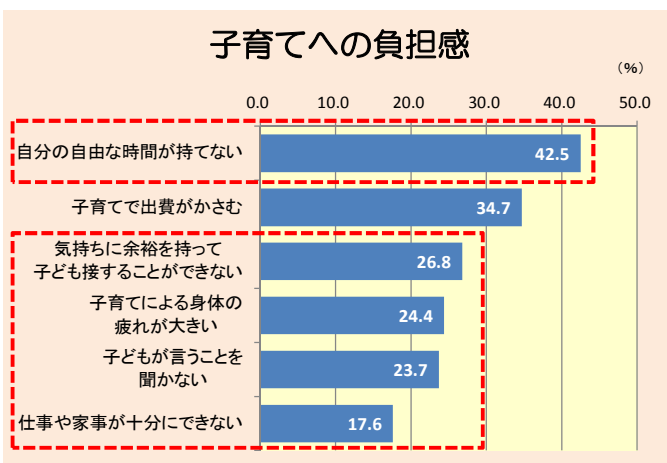


出典:国勢調査結果

1. 子どもが健やかに成長する社会のしくみづくり⑥

子育てへの負担感

子育てについては、経済的な負担と同時に、「自分の自由な時間が持てない」などの心理的な負担を感じる割合も大きい状況にある。



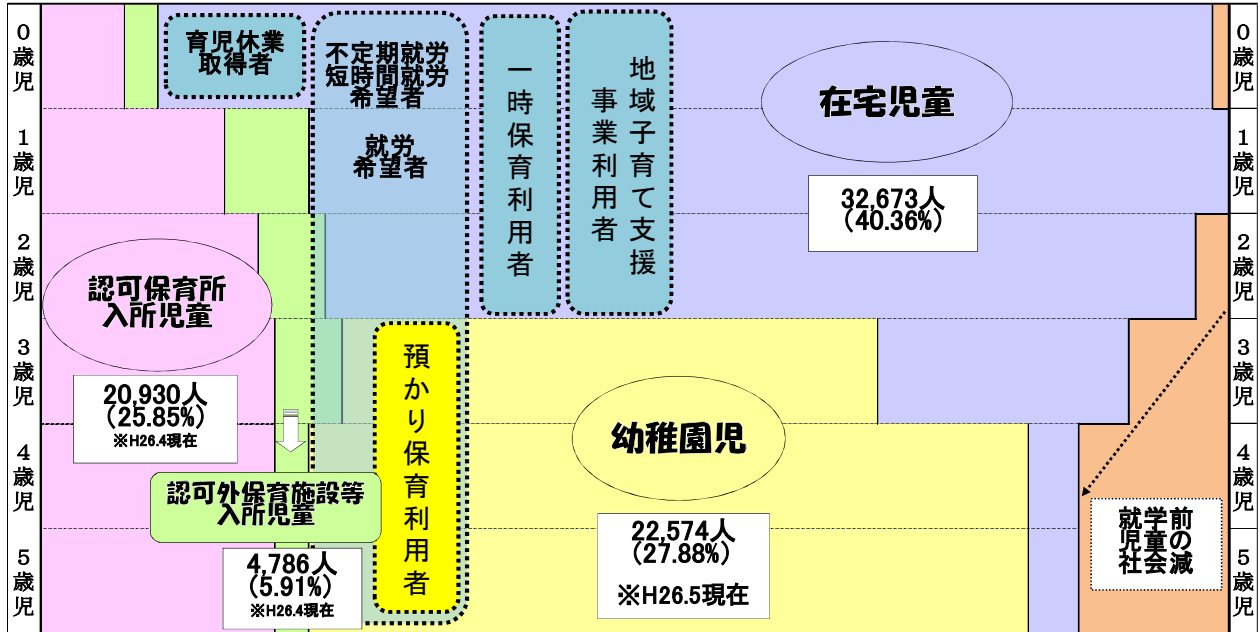
出典:家族と地域における子育てに関する意識調査(内閣府)

1. 子どもが健やかに成長する社会のしくみづくり⑦

就学前児童の養育状況 ～子育て支援サービスの利用ニーズ～

就学前児童の養育状況として、低年齢児を中心とした在宅児童が約40%、認可・認可外の保育所に通う児童が約32%、幼稚園に通う児童が約28%となっている。

就学前児童(H26. 4現在) 80,963人



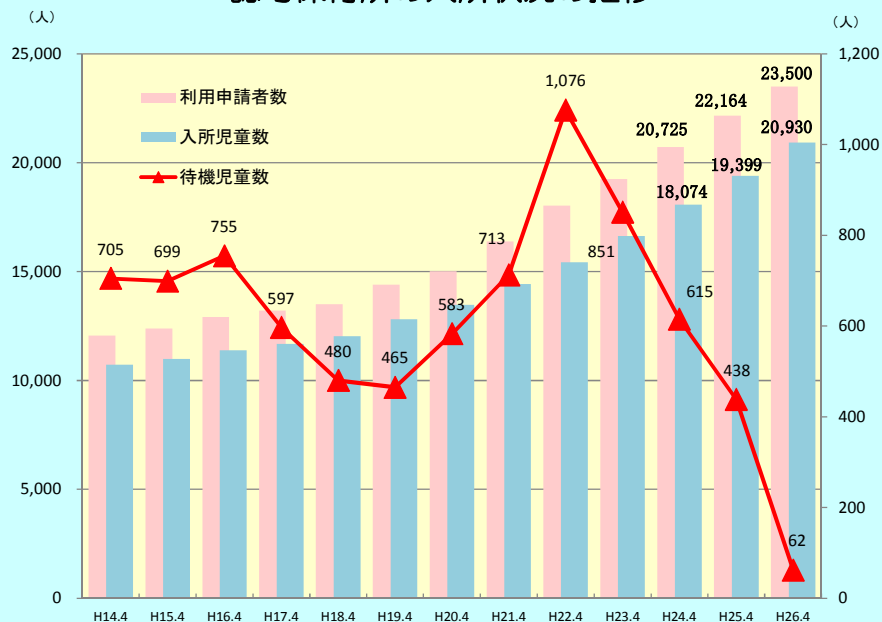
出典:こども本部調べ(H26. 7月時点)

1. 子どもが健やかに成長する社会のしくみづくり⑧

高まる保育ニーズと待機児童ゼロの実現

人口増加に伴う就学前児童数の増加や共働き世帯の増加などを背景に、認可保育所の利用ニーズは高まっており、待機児童ゼロに向けた取組を進めている状況にある。

認可保育所の入所状況の推移

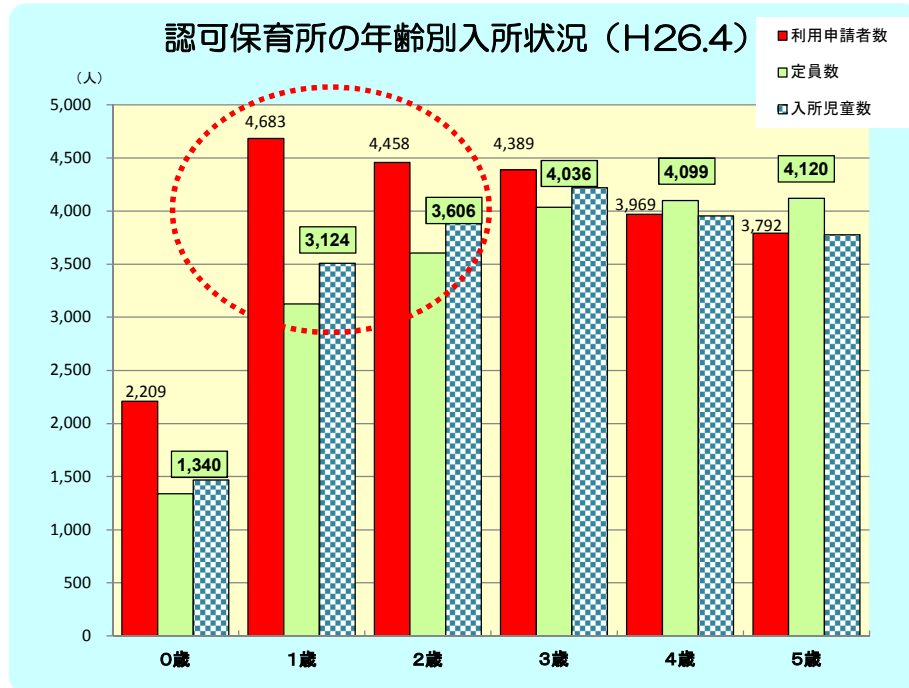


出典:こども本部調べ

1. 子どもが健やかに成長する社会のしくみづくり⑨

1歳児からの保育ニーズの高まりと定員の差

待機児童の1つの要因として、育児休業制度等の定着に伴い、1歳児からの保育所利用ニーズが高く、利用申請者数と入所児童数に大きな差が生じている状況がある。



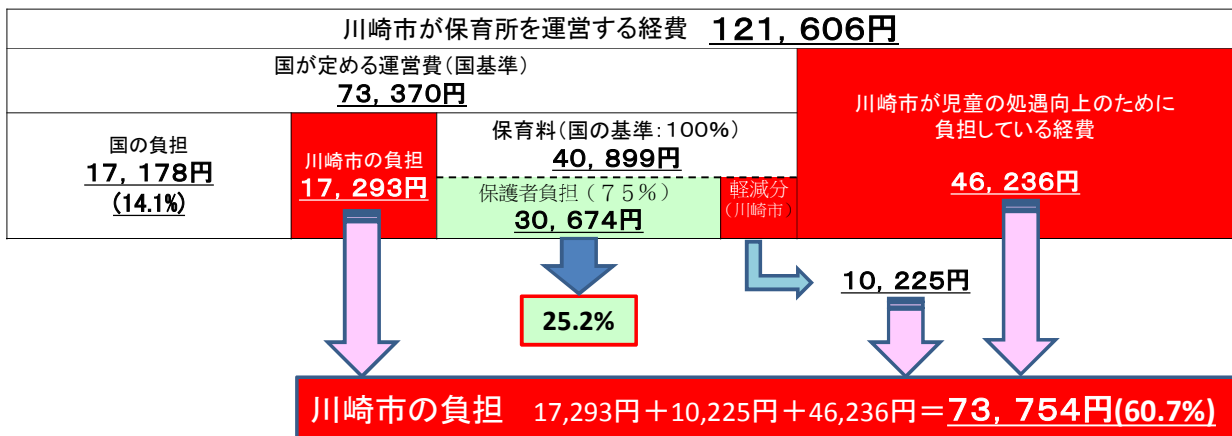
出典:こども本部調べ

1. 子どもが健やかに成長する社会のしくみづくり⑩

保育サービスの利用と負担の状況

保育所を利用する児童一人あたりの公費(川崎市)の負担額は月額約7万4千円となっており、保護者負担(保育料)は、約3万円で全体の25.2%の負担となっている。

<児童一人あたりの平均月額保育所運営費の状況(平成26年度予算ベース)>

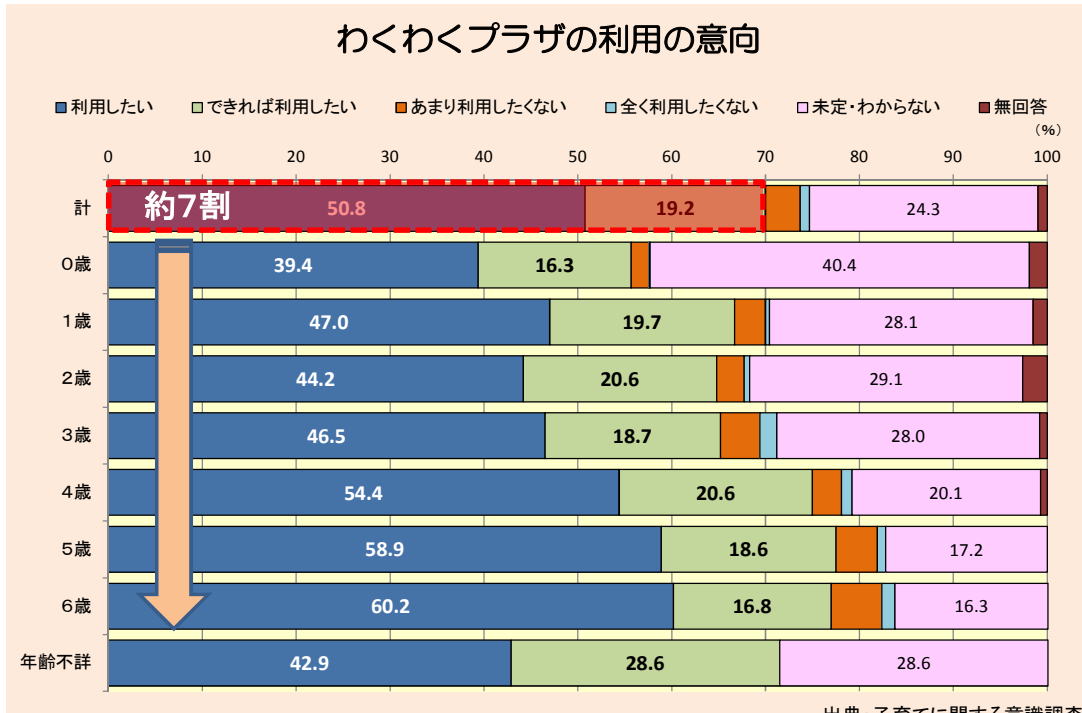


出典:こども本部調べ

1. 子どもが健やかに成長する社会のしくみづくり⑪

わくわくプラザの利用の意向

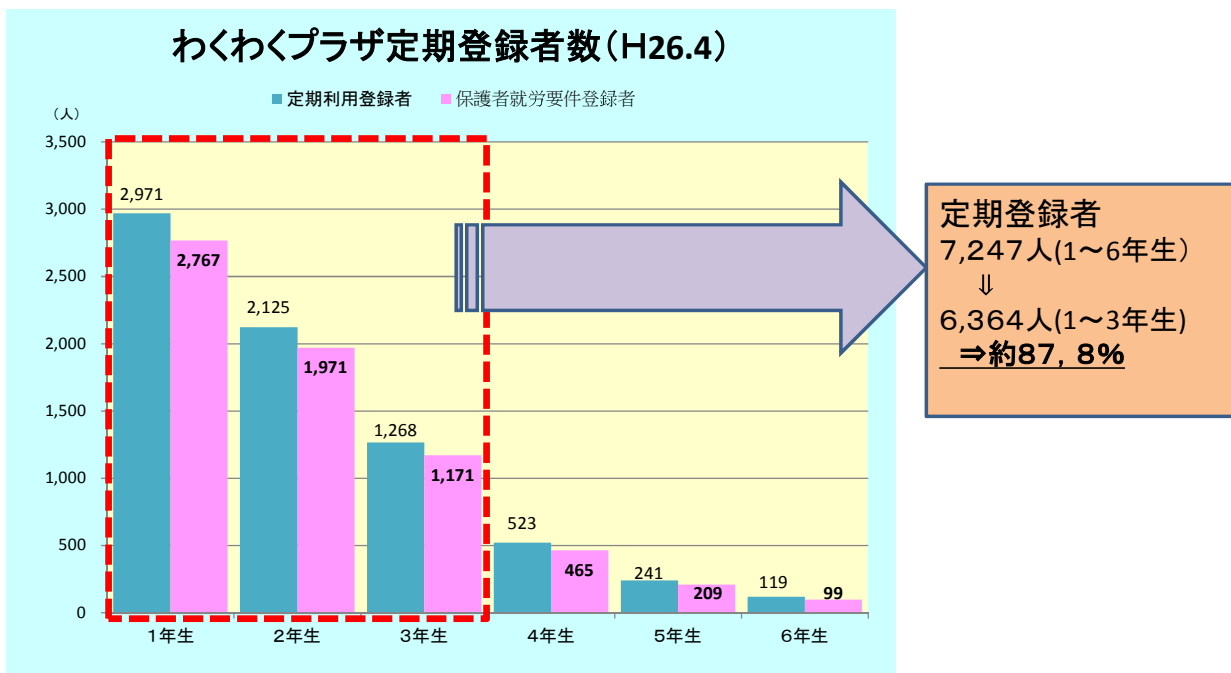
約7割がわくわくプラザの利用を希望しており、子どもの年齢が上がり小学生に近くなるほど、利用の意向は高まっている状況がある。



1. 子どもが健やかに成長する社会のしくみづくり⑫

わくわくプラザの定期登録者数の推移

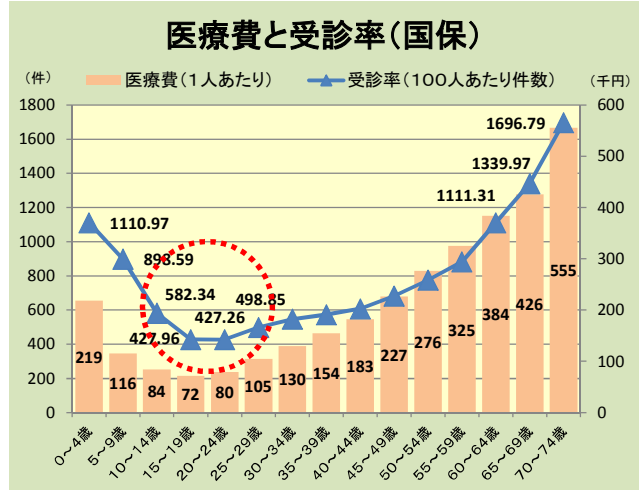
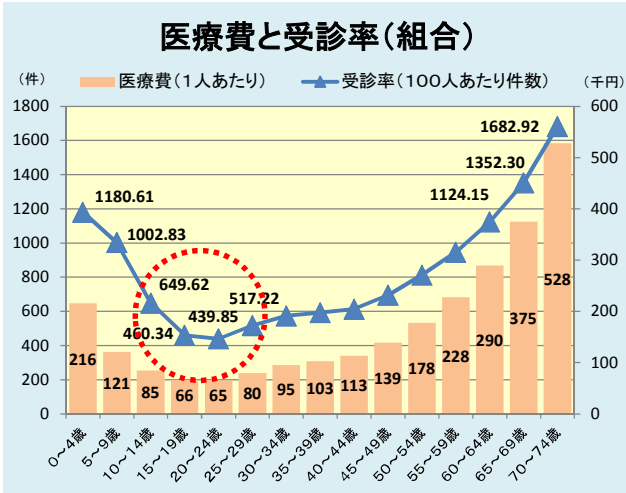
わくわくプラザの定期的な利用を希望する児童は、1年生から3年生までの低学年の児童が多く、そのほとんどは保護者が就労している児童となっている。



1. 子どもが健やかに成長する社会のしくみづくり⑬

子どもの医療費と受診率

医療費や受診率は、生まれてから就学前が最も高く、その後は下降し、20歳代後半から再び緩やかに上昇を続け、60歳を過ぎると急速に上昇している。

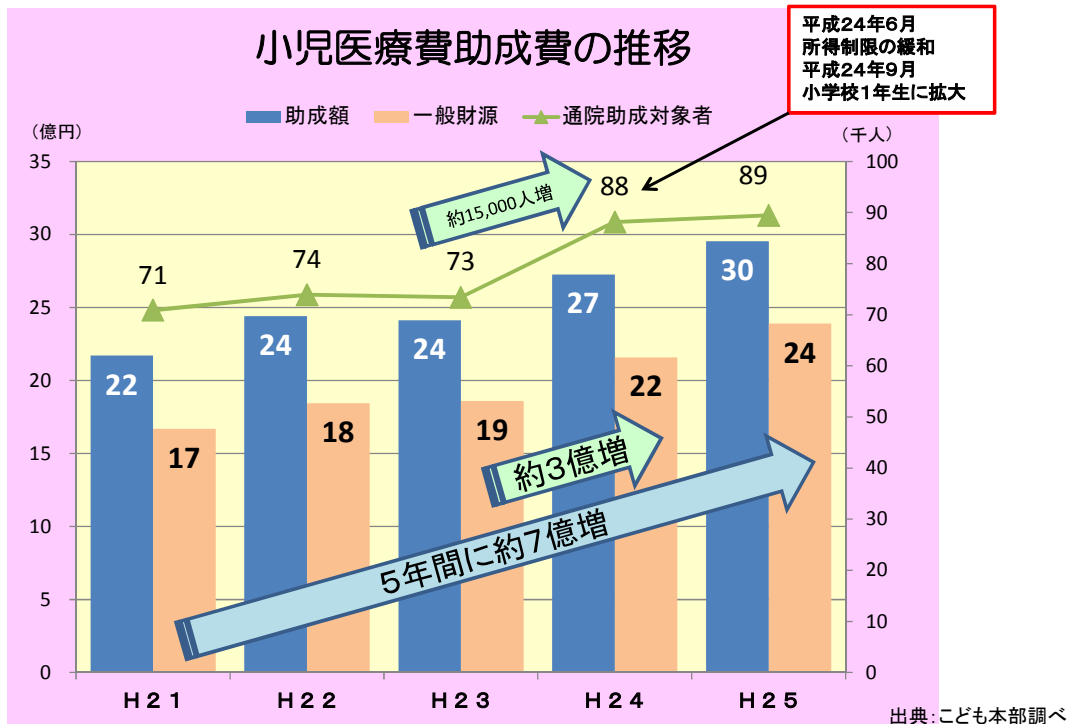


出典:平成24年度医療給付実態調査(厚労省)

1. 子どもが健やかに成長する社会のしくみづくり⑭

小児医療助成費と対象者の推移

平成24年6月に所得制限の緩和(主たる生計者の所得630万円を限度額)を行い、平成24年9月には通院医療費の対象年齢を小学校1年生まで拡大している。



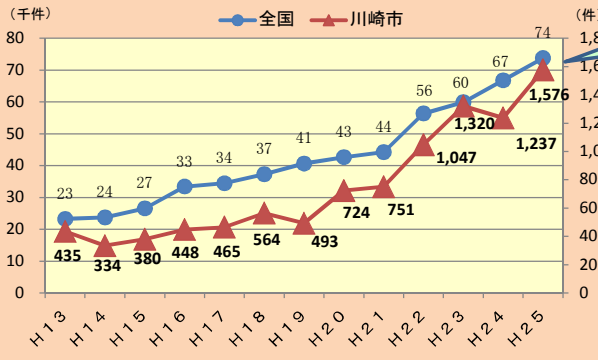
出典:こども本部調べ

1. 子どもが健やかに成長する社会のしくみづくり⑮

児童虐待相談・通告件数の増加

児童虐待相談・通告件数は年々上昇しており、10年で約4倍に増えている。種別では心理的な虐待が最も多く、ネグレクト・身体的な虐待となっており、子どもの命を守るためには相談・支援体制の強化・充実が求められる。

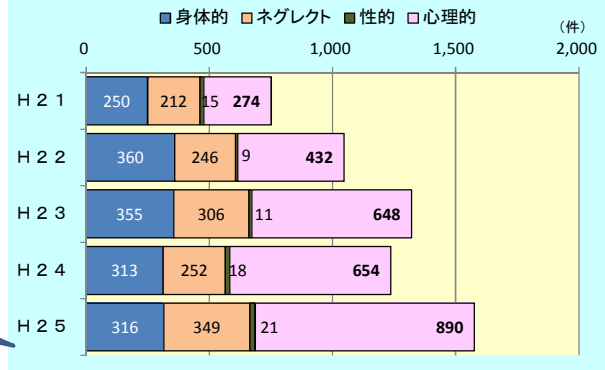
児童虐待相談・通告件数の推移



平成15年から25年までの10年間で約1,200件(4倍)の増加

心理的な虐待は平成21年から25年までの5年間で約3倍の増加

児童虐待の種別件数



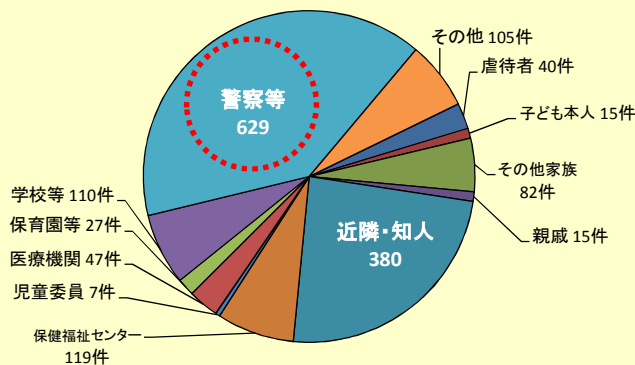
出典:こども本部調べ

1. 子どもが健やかに成長する社会のしくみづくり⑯

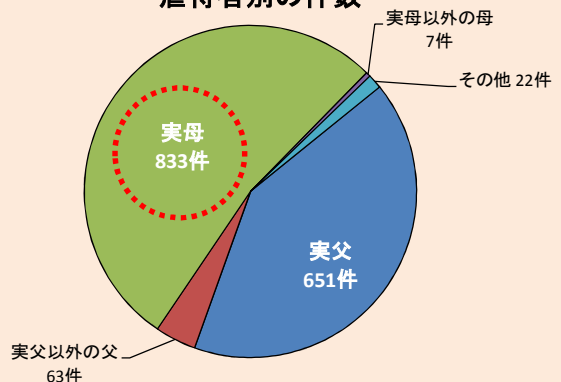
相談通告の経路と虐待者

児童虐待の相談・通告件数は、警察等からが最も多く、次いで近隣・知人と続いている。また、虐待を行う者としては、実母が最も多い状況にある。

相談・通告経路別件数(H25)



虐待者別の件数



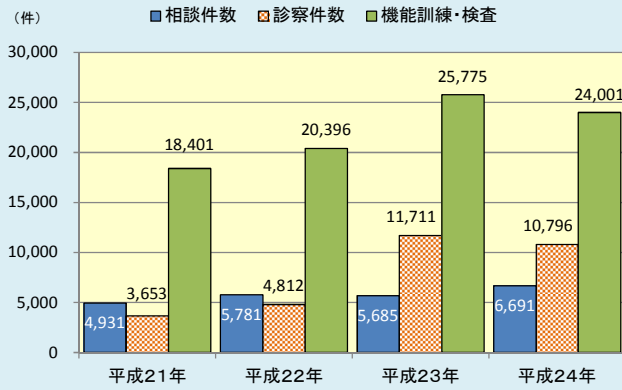
出典:こども本部調べ

1. 子どもが健やかに成長する社会のしくみづくり①

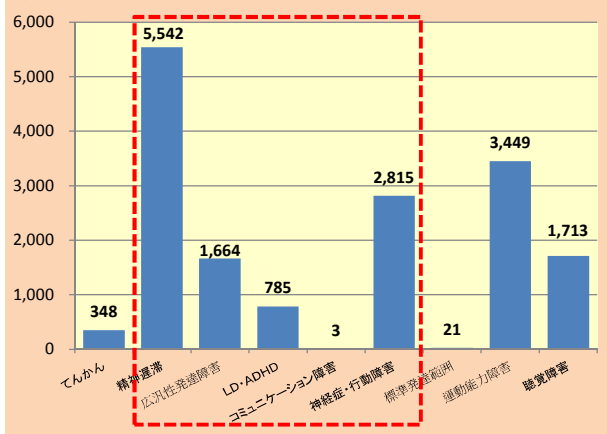
障害児の相談・診察・訓練等の状況

地域療育センターにおける障害児の相談件数は上昇傾向にあり、機能訓練等に通所する件数も上昇傾向にある。また、診断結果では精神遅滞が最も多い状況にある。

地域療育センターの相談件数等の推移



受診児の診断状況(H24)



出典：川崎市子ども統計・こども本部調べ

1. 子どもが健やかに成長する社会のしくみづくり

～子どもたちが地域社会の中で健やかに成長していくために～

家庭で
できること

地域で
できること

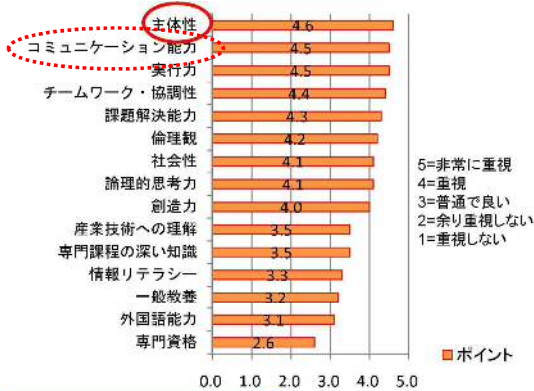
行政がや
るべきこと

2. 夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く①

産業界から求められる人材像

産業界からは「主体性」や「コミュニケーション能力」等を備えた人材が求められている。

□ 特に重視されるのは、主体性、コミュニケーション能力、実行力、チームワーク・協調性
 [図5]大学生の採用にあたって重視する素質・態度、知識・能力 n=594社



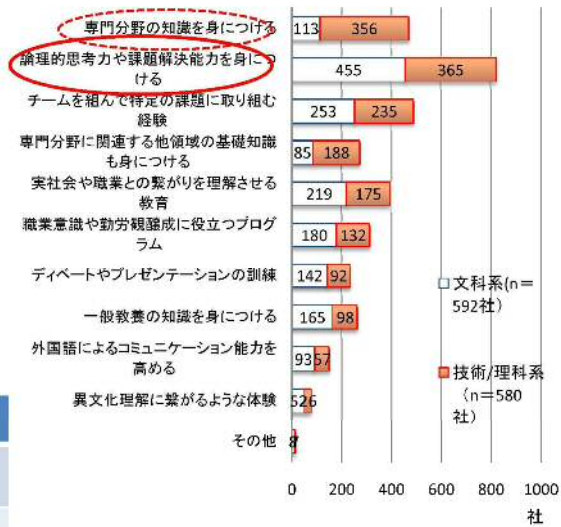
[表2]大学生に不足しているもの

	第1位	第2位	第3位
素質・態度	主体性 /523社	職業観 /361社	実行力 /322社
知識・能力	創造力 /407社	産業技術への理解 /396社	コミュニケーション能力 /346社

n=587社

□ 技術系・理科系では「専門分野の知識」や「専門分野に関する他領域の基礎知識」を身につけることへの期待が高い。

[図6]文科系、技術・理科系大学生に期待するもの (複数回答)



出典：産業界の求める人材像と大学教育への期待に関するアンケート(2011年1月(社)日本経済団体連合会)

2. 夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く②

OECD 国際成人力調査の結果(PIAAC:ピアック)

- 成人の「読解力」「数的思考力」は第1位
- IT能力は、パソコンを使用した調査を受けた者の得点は第1位

【国際成人力調査とは?】

経済のグローバル化や知識基盤社会への移行に伴い、OECDに加盟する先進国では、**雇用を確保し経済成長を促すため、国民のスキルを高める必要がある**との認識が広まっています。このような中、OECDでは、**各国の成人のスキルの状況を把握し、各国の政策に資する知見を得ることを目的**として、初めて本調査を実施しました。

OECD加盟国等24か国・地域(日、米、英、仏、独、韓、豪、加、フィンランド等)が参加し、16歳~65歳までの男女個人を対象として、「読解力」「数的思考力」「ITを活用した問題解決能力」及び調査対象者の背景(年齢、性別、学歴、職歴など)について調査しました。

読解力	数的思考力	ITを活用した問題解決能力
平均得点	平均得点	※平均得点
OECD平均・273	OECD平均・269	OECD平均・283
①日本・296	①日本・288	①日本・294
②フィンランド・288	②フィンランド・282	②フィンランド・289
③オランダ・284	③ベルギー・280	③オーストラリア・289
④オーストラリア・280	④オランダ・280	④スウェーデン・288
⑤スウェーデン・279	⑤スウェーデン・279	⑤ノルウェー・286

※ITを活用した問題解決能力について
 パソコンを使用したコンピュータ調査でのみ測定され、紙での調査を受けた者については測定されない。
 このため、PIAACでは、コンピュータ調査を受けなかった者も母数に含めたレベル2・3の者の割合で、各国のITを活用した問題解決能力の状況を分析している。(習熟度レベル1未満~レベル3まで4段階で設定)
 我が国は、コンピュータ調査ではなく紙での調査を受けた者の割合が36.8%とOECD平均の24.4%を大きく上回っていることから、コンピュータ調査を受けなかった者も母数に含めたレベル2・3の者の割合で見ると、OECD平均並みとなる。
 ITを活用した問題解決能力の得点は、PIAACのデータを元にコンピュータ調査回答者を母数として国立教育政策研究所が算出

出典：文部科学省・国立教育政策研究所

2. 夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く③

「PISA(ピサ)調査」の概要

2012年に実施された最新調査では、学力の回復傾向が見られ、いずれの結果(「数学的リテラシー」「読解力」「科学的リテラシー」)も参加国の中で、上位となった。

表1 PISA2012年調査における平均得点の国際比較

順位	数学的リテラシー	平均得点	読解力	平均得点	科学的リテラシー	平均得点
1	上海	613	上海	570	上海	580
2	シンガポール	573	香港	545	香港	555
3	香港	561	シンガポール	542	シンガポール	551
4	台湾	560	日本	538	日本	547
5	韓国	534	韓国	536	フィンランド	545
6	マカオ	538	フィンランド	524	エストニア	541
7	日本	536	アイルランド	523	韓国	538
8	リヒテンシュタイン	535	台湾	523	ベトナム	528
9	スイス	531	カナダ	523	ポーランド	526
10	オランダ	523	ポーランド	518	カナダ	525
11	エストニア	521	エストニア	516	リヒテンシュタイン	525
12	フィンランド	519	リヒテンシュタイン	516	ドイツ	524
13	カナダ	518	ニュージーランド	512	台湾	523
14	ポーランド	518	オーストラリア	512	オランダ	522
15	ベルギー	515	オランダ	511	アイルランド	522
16	ドイツ	514	ベルギー	509	オーストラリア	521
17	ベトナム	511	スイス	509	マカオ	521
18	オーストラリア	506	マカオ	509	ニュージーランド	516
19	オーストラリア	504	ベトナム	508	スイス	515
20	アイルランド	504	ドイツ	508	スロベニア	514
21	スロベニア	501	フランス	505	イギリス	514
22	デンマーク	500	ノルウェー	504	チェコ	508
23	ニュージーランド	500	イギリス	499	オーストラリア	508
24	チェコ	499	アメリカ	498	ベルギー	505
25	フランス	495	デンマーク	496	ラトビア	502
26	イギリス	494	チェコ	493	フランス	499
27	アイスランド	493	イタリア	490	デンマーク	498
28	ラトビア	491	オーストラリア	490	アメリカ	497
29	ルクセンブルグ	490	ラトビア	489	スペイン	496
30	ノルウェー	489	ハンガリー	488	リトアニア	496

国名	OECD加盟国	平均得点	OECD平均よりも統計的に有意に高い国・地域
国名	非OECD加盟国	平均得点	OECD平均と統計的に有意差がない国・地域
		平均得点	OECD平均よりも統計的に有意に低い国・地域

出典:文部科学省、国立教育政策研究所

2. 夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く④

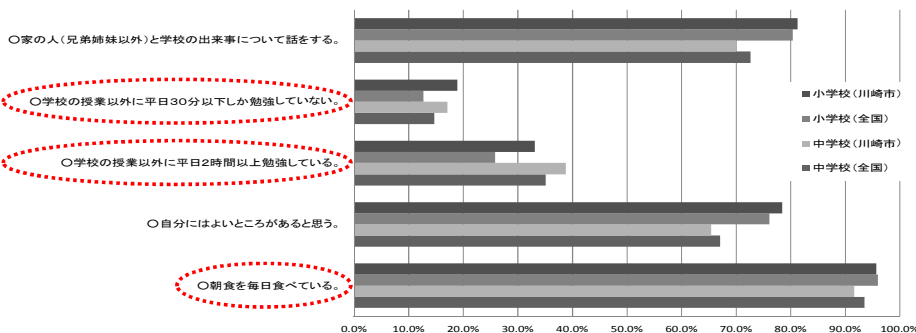
平成26年度全国学力・学習状況調査の結果(都道府県別正答率等)

川崎市の子どもの学力は、基礎(A)・応用(B)とも、全国・神奈川県を上回っている。

小学校					中学校				
国語A	国語B	算数A	算数B		国語A	国語B	数学A	数学B	
1 秋田県 77.4%	1 秋田県 67.3%	1 秋田県 85.1%	1 秋田県 66.2%	1 秋田県 84.4%	1 福井県 55.9%	1 福井県 74.3%	1 福井県 66.9%		
2 鳥取県 77.0%	2 石川県 62.7%	2 福井県 83.1%	2 福井県 64.1%	2 福井県 83.0%	2 秋田県 55.8%	2 秋田県 73.0%	2 秋田県 65.5%		
3 茨城県 76.9%	3 福井県 61.8%	3 石川県 82.5%	3 石川県 63.6%	3 富山県 82.3%	3 富山県 55.1%	3 富山県 71.1%	3 静岡県 63.7%		
4 青森県 76.6%	4 青森県 60.5%	4 青森県 81.3%	4 富山県 62.0%	4 石川県 81.9%	4 群馬県 54.2%	4 石川県 70.9%	4 富山県 63.6%		
5 広島県 75.9%	5 富山県 59.5%	5 富山県 81.0%	5 東京都 61.2%	5 群馬県 81.1%	5 石川県 53.7%	5 静岡県 70.9%	5 石川県 63.4%		
25 川崎市 73.2%	12 川崎市 57.6%	17 川崎市 79.1%	6 川崎市 60.9%	10 川崎市 80.6%	8 川崎市 52.6%	18 川崎市 67.9%	12 川崎市 61.5%		
39 神奈川県 71.3%	29 神奈川県 54.6%	39 神奈川県 76.9%	15 神奈川県 58.6%	32 神奈川県 79.2%	20 神奈川県 51.5%	26 神奈川県 67.0%	14 神奈川県 60.8%		

※川崎市の順位(白抜き数字)については、本市と同水準の都道府県の順位を示している。

生活習慣や学習状況

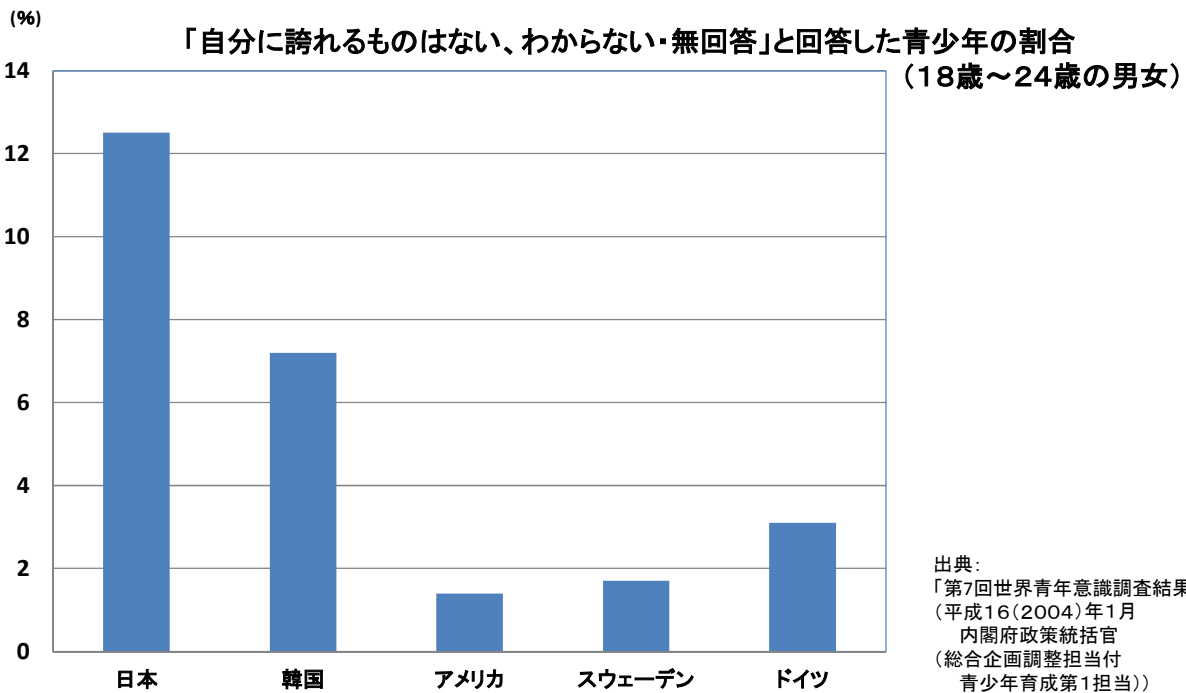


出典:平成26年度全国学力・学習状況調査

2. 夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く⑤

「自尊心」の国際比較

一般的に日本の青少年は「自尊心」が低いと言われている。



23

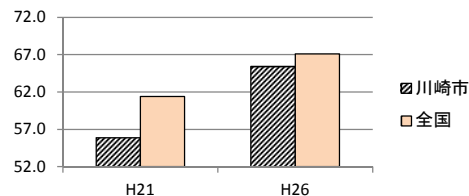
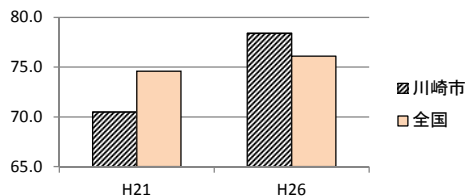
2. 夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く⑥

本市の「自尊意識」「将来の夢、目標」を持つ子どもの割合の推移

全国と比較して「自尊意識」や「夢や目標」を持つ子どもの割合が低かったが、小学校6年生では「自尊意識」が全国を上回るなど、近年その差は縮まってきている。

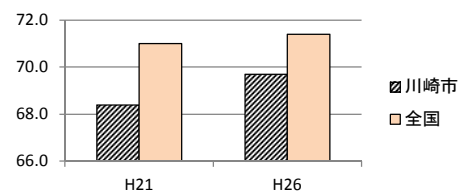
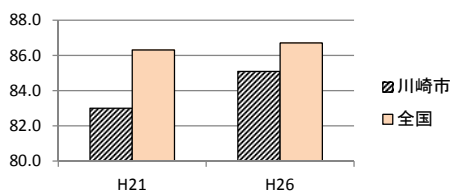
「自尊意識」の推移

- 「自分にはよいところがあると思う、どちらかといえばあると思う」と回答した児童生徒の割合
(小学校6年生) (中学校3年生)



「将来に関する意識」の推移

- 「将来の夢や目標を持っている、どちらかといえば持っている」と回答した児童生徒の割合
(小学校6年生) (中学校3年生)



出展：平成26年度全国学力・学習状況調査

24

2. 夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く⑦

平成26年度市学習状況調査の結果(「授業が分かる」子どもの割合)

本市の小学校児童の理解度は、ほぼ横ばいの傾向にあり、「わかる」と感じる児童をさらに増やしていく必要がある。

授業が「わかる」児童の割合(小学校)

		わかる	どちらかといえば、わかる	どちらかといえば、わからない	わからない	無回答
国語	H24	54.6	36.3	6.8	1.7	0.6
	H25	57.2	35.1	5.8	1.5	0.4
	H26	55.3	35.8	6.0	1.4	1.5
社会	H24	44.8	37.9	13.5	3.1	0.7
	H25	47.9	36.4	12.2	2.9	0.5
	H26	46.5	36.9	12.1	2.7	1.9
算数	H24	53.0	31.5	10.6	4.2	0.8
	H25	55.2	30.1	10.4	3.8	0.5
	H26	55.3	29.8	9.7	3.2	1.9
理科	H24	63.6	29.0	5.3	1.4	0.7
	H25	67.1	26.9	4.5	1.1	0.4
	H26	67.1	26.5	4.1	0.9	1.4

出典：川崎市総合教育センター

2. 夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く⑧

平成26年度市学習状況調査の結果(「授業が分かる」子どもの割合)

学習内容が難しくなる中学校では、小学校より「わかる」と感じる生徒の割合はどの教科においても低い。

授業が「わかる」生徒の割合(中学校)

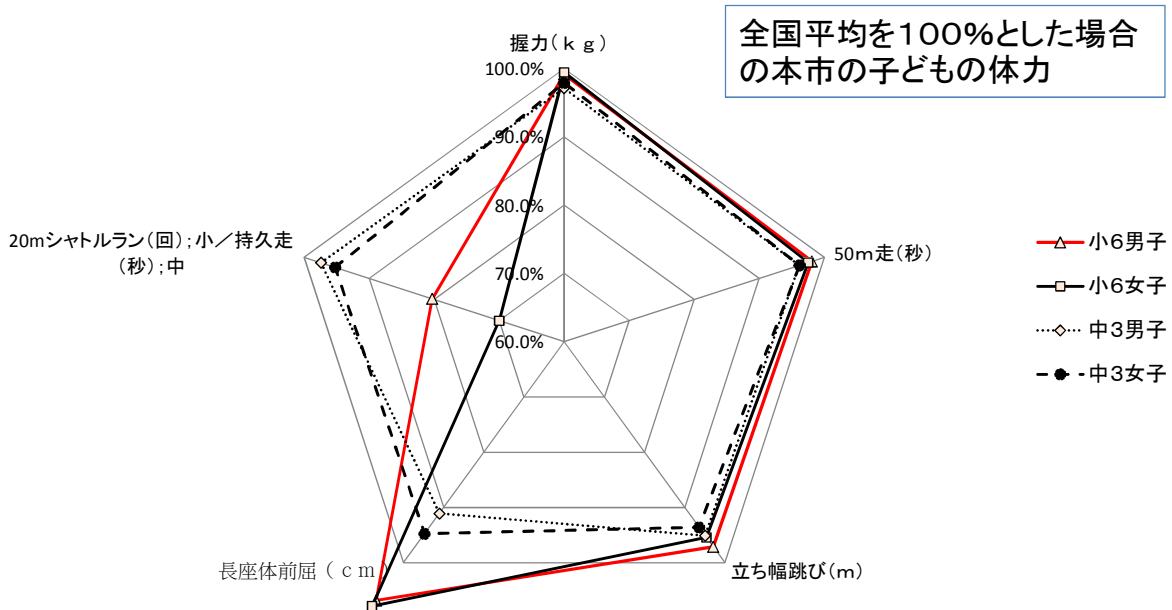
		わかる	どちらかといえば、わかる	どちらかといえば、わからない	わからない	無回答
国語	H23	31.4	50.4	13.6	4.3	0.3
	H24	30.4	51.5	13.8	4.0	0.4
	H25	32.0	49.4	13.8	4.5	0.3
社会	H23	29.7	43.3	19.8	7.0	0.3
	H24	29.1	43.3	19.7	7.5	0.4
	H25	27.0	42.9	20.8	9.0	0.3
数学	H23	28.0	38.9	21.4	11.3	0.3
	H24	31.2	38.0	20.0	10.4	0.4
	H25	30.6	40.2	18.2	10.7	0.4
理科	H23	22.8	43.4	24.3	9.2	0.4
	H24	23.1	43.3	23.7	9.4	0.4
	H25	24.9	44.0	22.2	8.6	0.4
英語	H23	27.4	37.3	21.9	13.1	0.3
	H24	27.5	38.6	21.6	11.8	0.5
	H25	29.3	39.2	19.9	11.4	0.3

出典：川崎市総合教育センター

2. 夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く⑨

本市の「新体カテスト」結果の全国との比較

- 全体的に体力が低く、小学生は特に「持久力」が低く「柔軟性」は比較的高い。
- 中学生は全国と比べて全般的に劣っている。



出典: H25新体カテスト(文部科学省)

27

2. 夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く⑩

学校種別の学習費総額、構成比、公私比較

すべて公立学校へ通学した場合(ケース2)でも、高校まで15年間で500万円以上の学習費(授業料・通学費・学用品費・学習塾・習い事の費用等の合計)がかかる。

区分	学習費総額				合計 (円)
	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	
ケース1 (すべて公立)					5,035,479 (公→公→公→公)
ケース2 (幼稚園だけ私立)	690,300 (公立)	1,834,842 (公立)	1,351,020 (公立)	1,159,317 (公立)	5,807,460 (私→公→公→公)
ケース3 (高等学校だけ私立)					6,776,610 (公→公→公→私)
ケース4 (幼稚園及び高等学校が私立)	1,462,281 (私立)	8,534,142 (私立)	3,885,468 (私立)	2,900,448 (私立)	7,548,231 (私→公→公→私)
ケース5 (小学校だけ公立)					10,083,039 (私→公→私→私)
ケース6 (すべて私立)					16,782,339 (私→私→私→私)

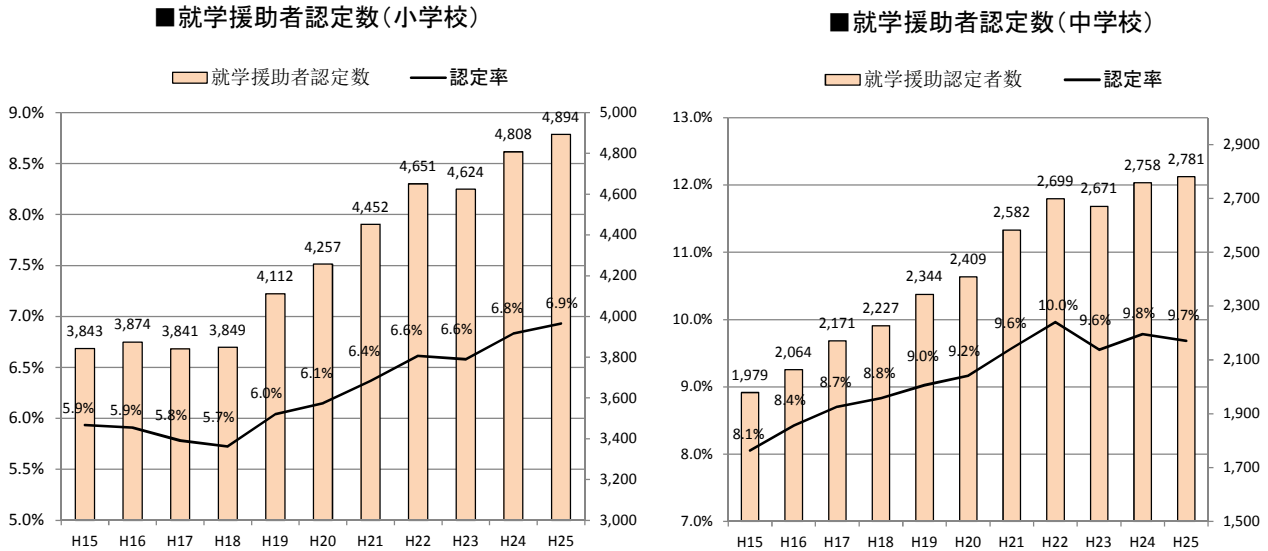
出典: 文部科学省「平成24年度子どもの学習費調査」

28

2. 夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く⑪

小中学校における就学援助認定者数の推移

就学援助認定者は年々増加し、小学校では40人クラスに、約2.76人、中学校では約3.88人が対象となっている。(就学援助:生活保護基準以下の収入の世帯には、学用品費や学校給食費、修学旅行費などが支給される。)



出典:川崎市教育委員会

2. 夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く⑫

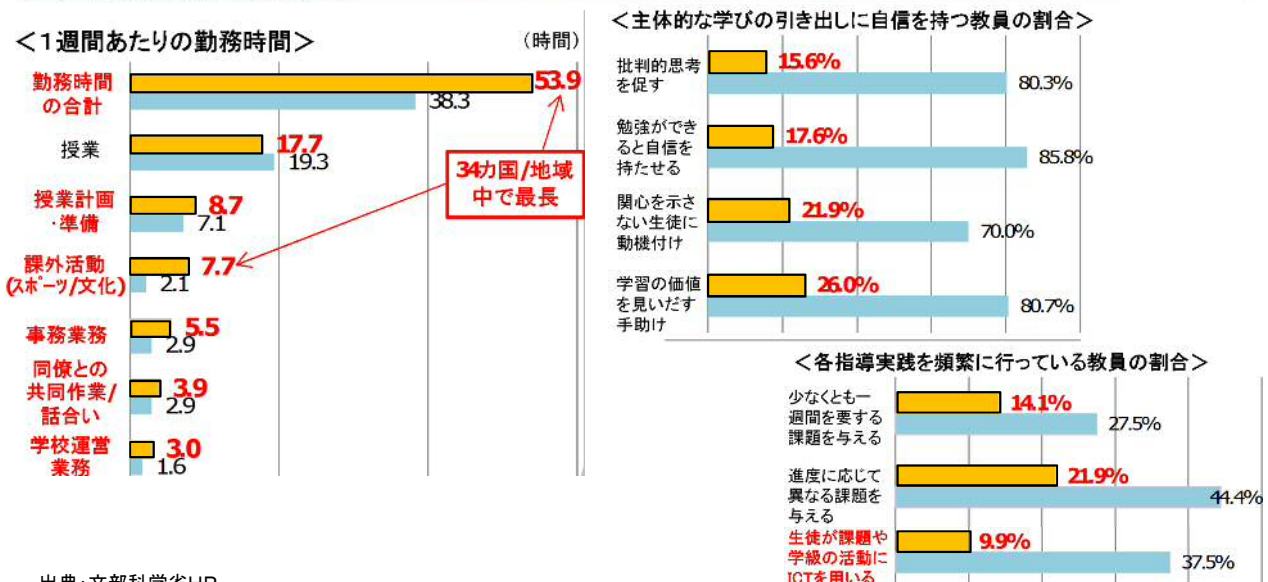
「国際教員指導環境調査(TALIS[タリス])」の結果概要

- 平成25年に実施された第2回調査に日本は初めて参加した。(OECD加盟34か国等)
- 日本の中学校教員の勤務時間は他の参加国よりも特に長く、人材の不足感も大きい。
- 生徒の主体的な学びを引き出すことに対する自信が低く、ICT活用の割合も低い。

○34か国・地域が参加するOECD調査
○日本は中学校約200校の校長、教員(非正規含む)を対象にアンケート調査(国公立90%、私立10%)

我が国の教員(前期中等教育段階)の現状と課題 —国際教員指導環境調査(TALIS)の結果概要—

■ 日本
■ 参加国平均



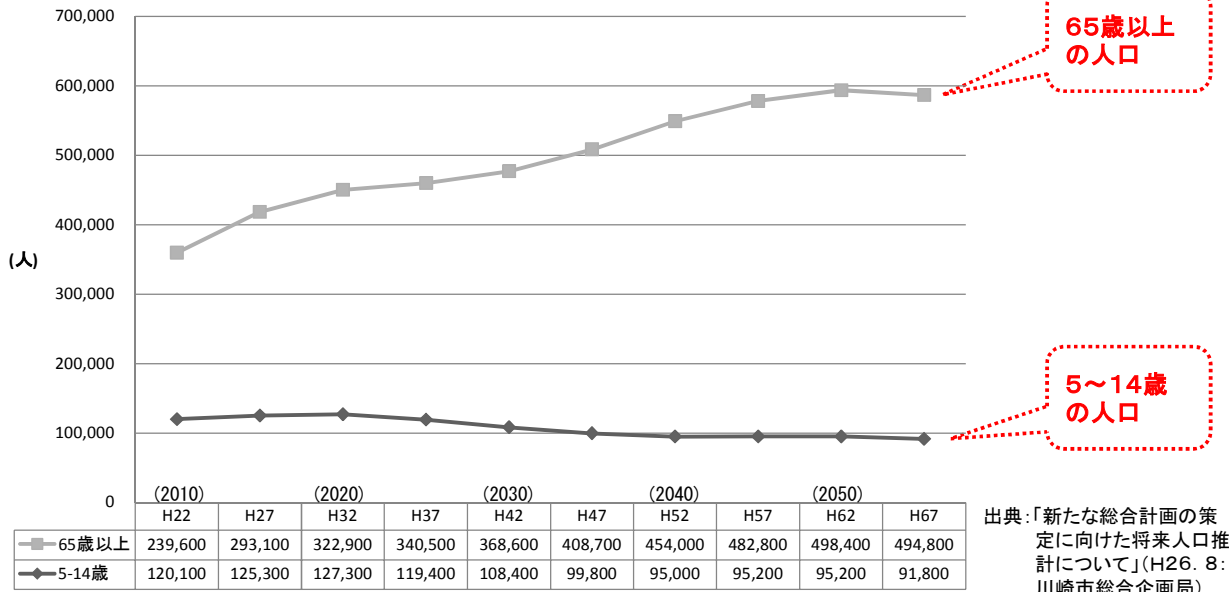
出典:文部科学省HP

2. 夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く⑬

学齢人口及び高齢人口の将来推計

- 高齢人口は(65歳以上の人口)は増加の一途である。
- 一方で、学齢人口と近似値である5歳から14歳の人口は平成32(2020)年をピークとして減少に転じることが予想されており、当面の児童生徒増加対策(新設・改築・増築)とともに、将来を見据えて校舎のコンパクト化のあり方等の検討が必要である。

学齢人口と老齢人口の将来推計



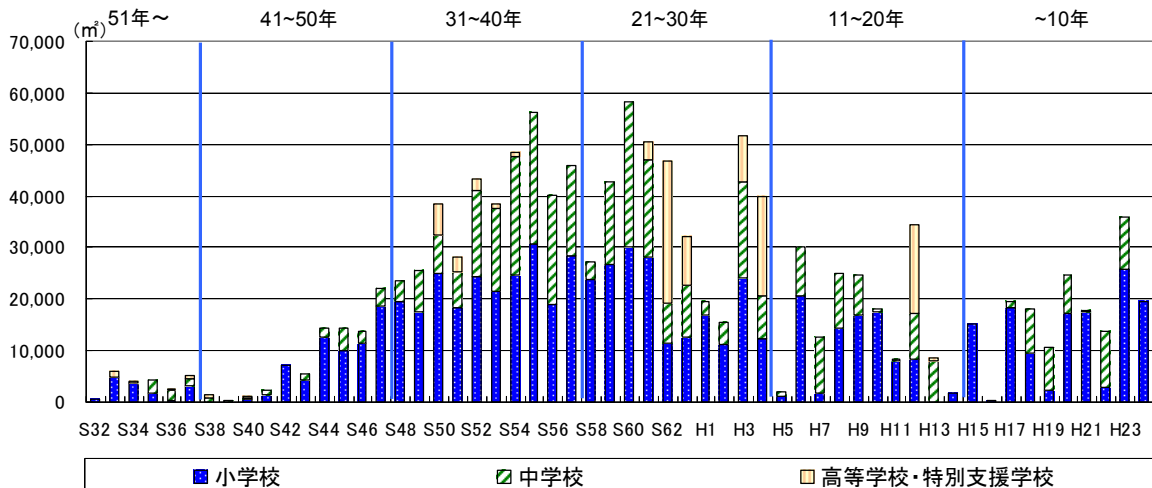
31

2. 夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く⑭

校舎等の老朽化

7割以上の校舎が築20年以上であり、現状では、平均45年程度で建替え(改築)しているため、今後、建替えの必要がある校舎が多数生じる見込みとなっている。

■ 建築年次別学校状況(公立学校施設台帳(平成24年5月1日現在)データによる)



出典:川崎市教育委員会

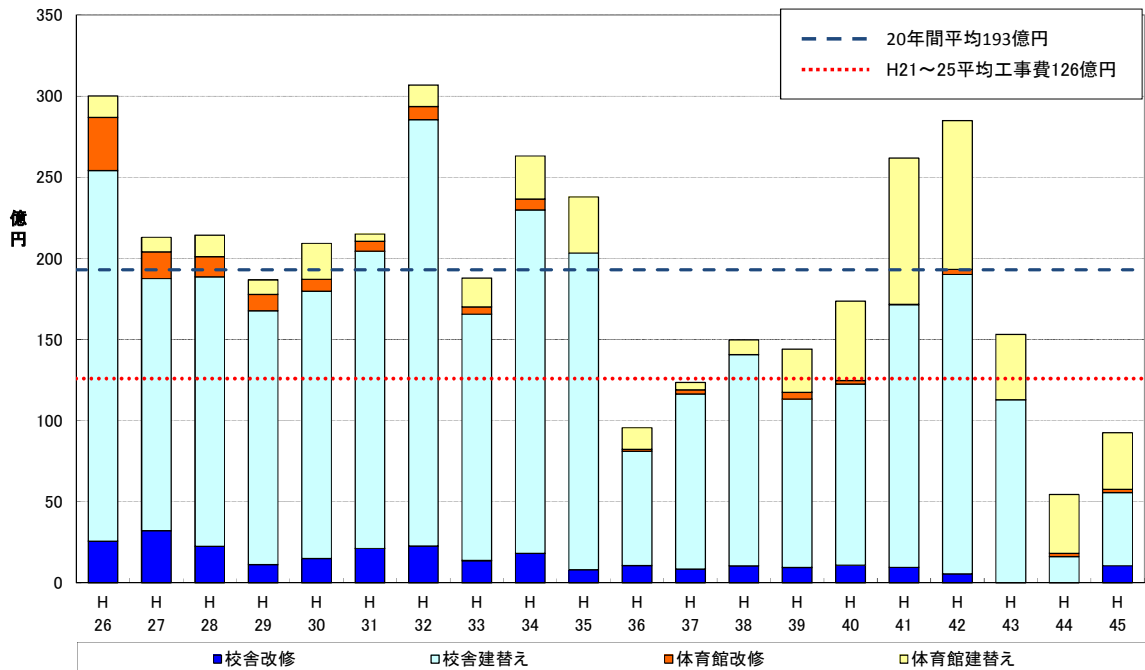
32

2. 夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く⑮

建替えにかかる多額の費用

今後、これまでの手法で、老朽化した多くの校舎を建て替えていくと、大幅な財源不足が生じる。(これまでは平均築45年で建替え)

■何の対策もしない場合の将来費用



出典: 川崎市教育委員会

33

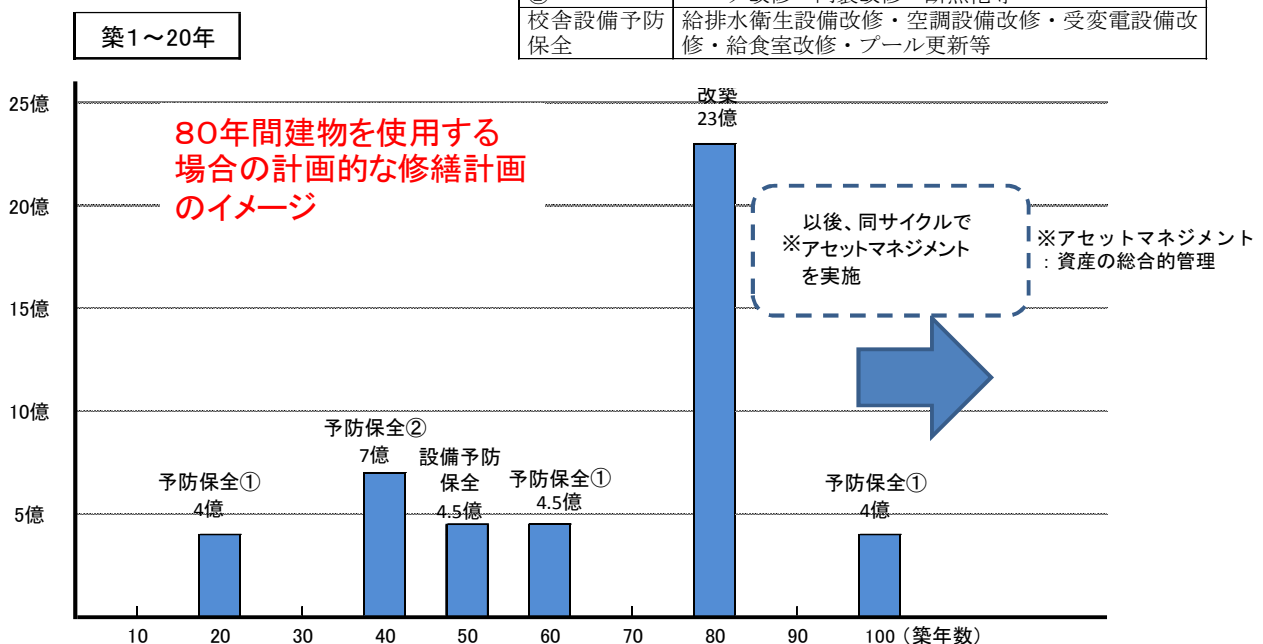
2. 夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く⑯

校舎等の計画的な修繕による「長寿命化」

計画的に校舎等の修繕を実施することで、長く使うことができる。

■長期保全のイメージ

項目	整備メニュー
校舎予防保全①	防水・外壁改修・内装補修・電気設備改修・エレベータ改修等
校舎予防保全②	防水・外壁改修・トイレ改修・電気設備改修・エレベータ改修・内装改修・断熱化等
校舎設備予防保全	給排水衛生設備改修・空調設備改修・受変電設備改修・給食室改修・プール更新等



出典: 川崎市教育委員会


34

2. 夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く⑰

「長寿命化」と併せて行う校舎の「再生整備」

計画的な修繕と併せて「再生整備」を実施することで、快適な教育環境を実現


庇、夜間換気(ナイトパージ)用の開口の設置



庇を設置して夏の直射日光を遮ったり、夜間換気(ナイトパージ)用の開口を設置して夏の夜間に自然換気をしたリすることで校舎全体を冷え、快適な環境に改善します。

ナイトパージ用ガラリ


内装改修

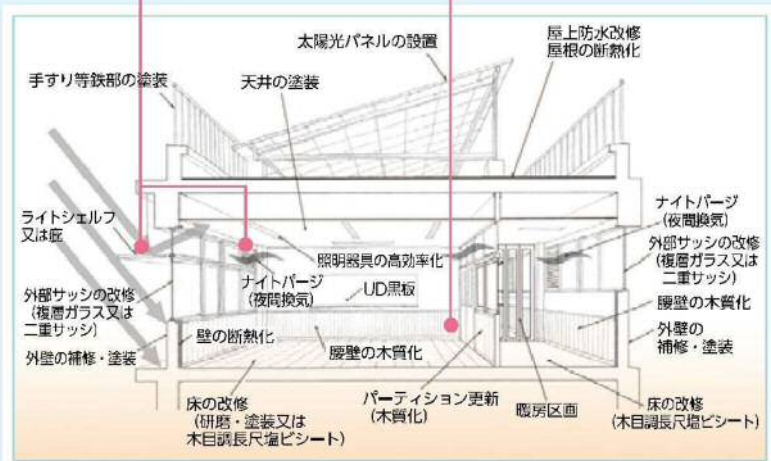


腰壁の木質化や壁等の断熱化で、子どもたちが過ごしやすい室内環境を作ります。

トイレの快適化

ウェット式のトイレをドライ式のきれいなトイレにします。節水型の便器や人感センサー付照明器具を導入し、地球環境に配慮します。





太陽光パネルの設置

手すり等鉄部の塗装

天井の塗装

屋根防水改修

屋根の断熱化

ライトシェルフ又は庇

照明器具の高効率化

ナイトパージ(夜間換気)

UD黒板

外部サッシの改修(複層ガラス又は二重サッシ)

壁の断熱化

腰壁の木質化

外壁の補修・塗装

床の改修(研磨・塗装又は木目調長尺塩ビシート)

パーティション更新(木質化)

脱着区画

床の改修(木目調長尺塩ビシート)

ナイトパージ(夜間換気)

外部サッシの改修(複層ガラス又は二重サッシ)

腰壁の木質化

外壁の補修・塗装

出典: 川崎市教育委員会

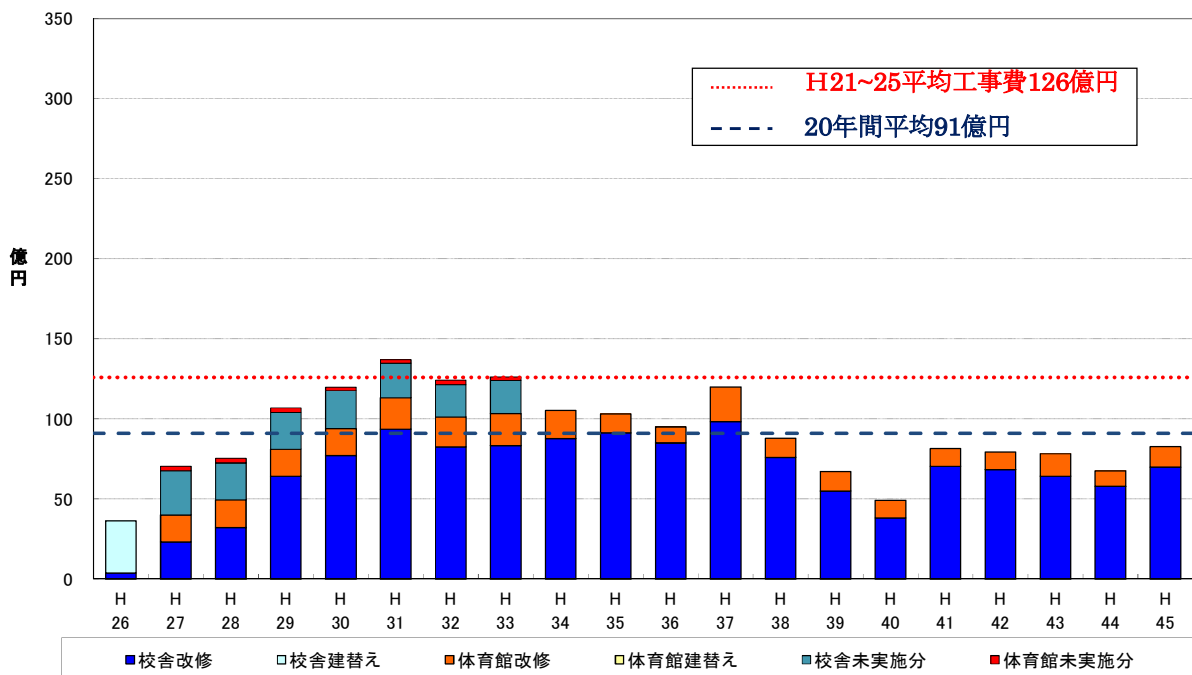
35

2. 夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く⑱

「長寿命化」「再生整備」により、効果的・効率的に教育環境を整備

「長寿命化」「再生整備」により、全体の教育環境を改善しつつ費用を低減

■校舎を長寿命化した場合の将来費用



出典: 川崎市教育委員会

36

2. 夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く⑱

新たな取組の例・「地域の寺子屋」の開講

子どもが確かな学力を身につけ、豊かに育っていくために、シニアを中心とした地域の力が求められている。

～「地域の寺子屋」のねらい～

- 子どもたちに、さまざまな学習機会を提供することにより、**学力向上や豊かな人間性の形成**を図る。
- 地域ぐるみで子どもの教育、学習をサポートする仕組みづくりにより、**地域の教育力向上**を図る。
- シニア世代をはじめとする地域人材の知識と経験を活かして、**多世代で学ぶ生涯学習の拠点**をつくる。



■週1回の学習支援の様子



■月1回の体験学習(お父さんと一緒に昔遊び)



37

2. 夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く

～子どもたちが将来、社会の中で生きていくために～

家庭で
できること

地域で
できること

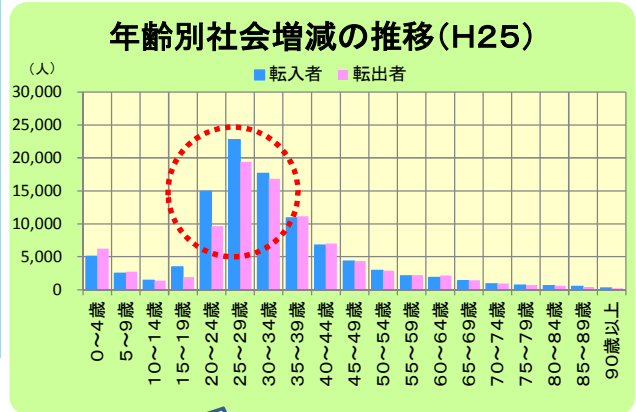
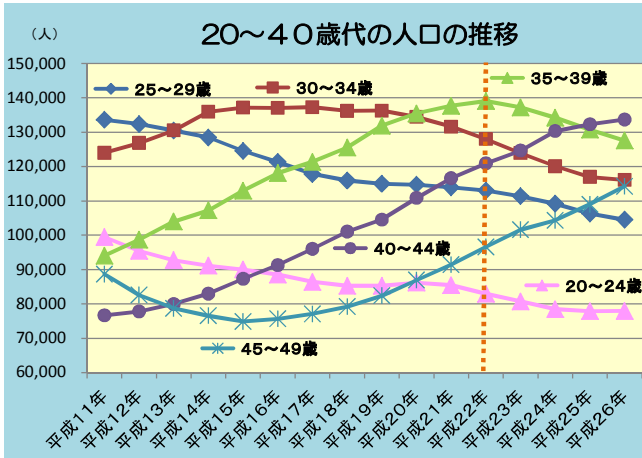
学校・行政
がやるべきこと

38

3. 若者が社会的に自立し、幸せに生きていくために①

若い世代の人口の減少

平成11年以降、40歳代は一貫して増加傾向にあるが、20～34歳は減少傾向にあり、平成22年には、それまで増加傾向にあった35～39歳も減少に転じている。



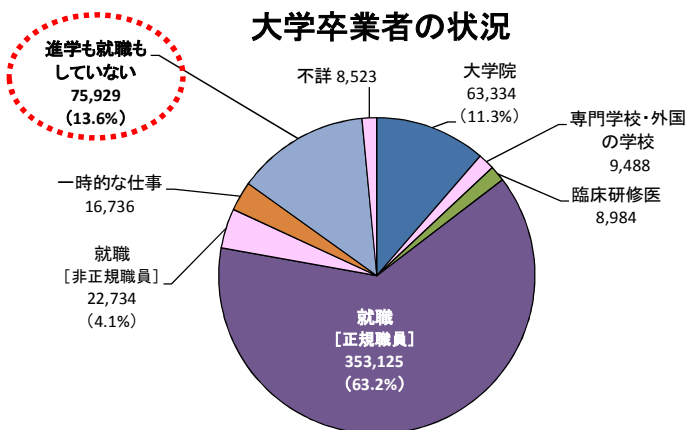
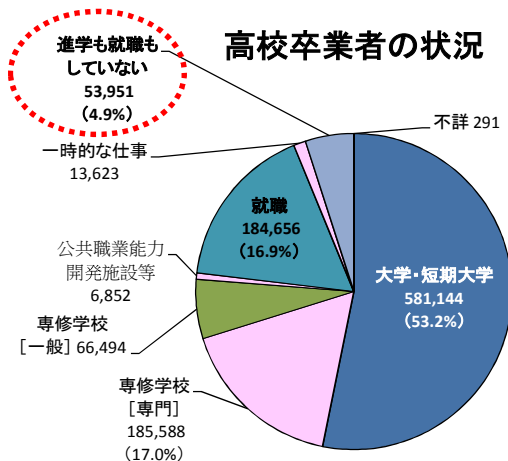
【20～24歳】	転入 1万4,971人	転出 9,645人	社会増 約5,300人
【25～29歳】	転入 2万2,754人	転出 1万9,431人	社会増 約3,300人
【30～34歳】	転入 1万7,662人	転出 1万6,817人	社会増 約845人

出典：川崎市町丁目別年齢別人口、川崎市の人口動態

3. 若者が社会的に自立し、幸せに生きていくために②

高校・大学の卒業者の状況

- 高校卒業者の約5割は、大学等へ進学、大学卒業者の約6割は就職をしている。
- 高校卒業者の4.9%、大学卒業者の13.6%が進学も就職もしていない。



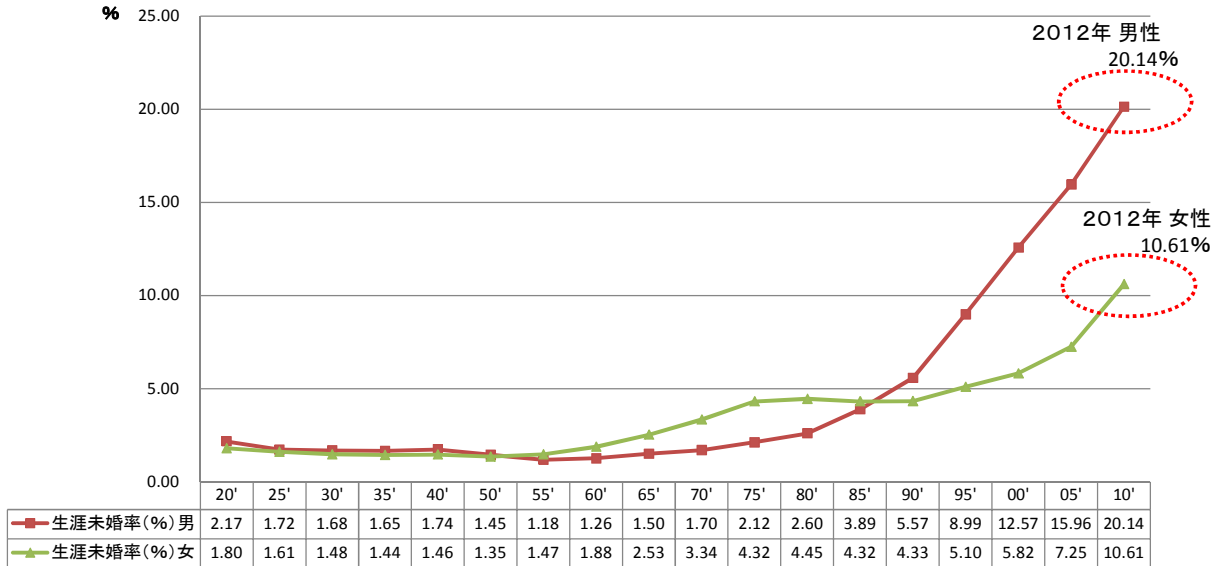
出典：学校基本調査(文部科学省) 平成25年3月

3. 若者が社会的に自立し、幸せに生きていくために③

生涯未婚率の上昇

1970年台までは、2%前後であった生涯未婚率は、急上昇しており、男性は20%を超えている。

日本の生涯未婚率

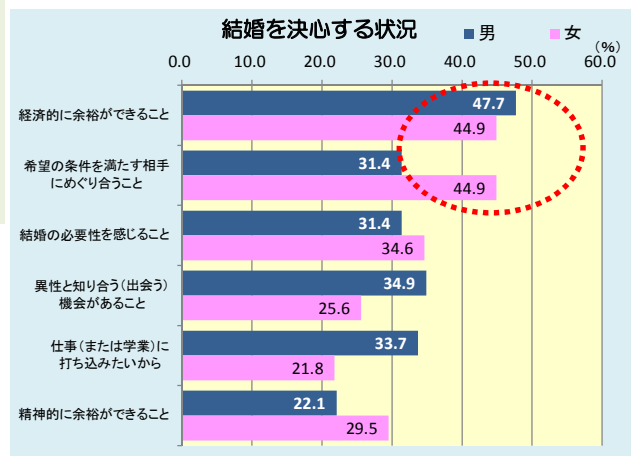
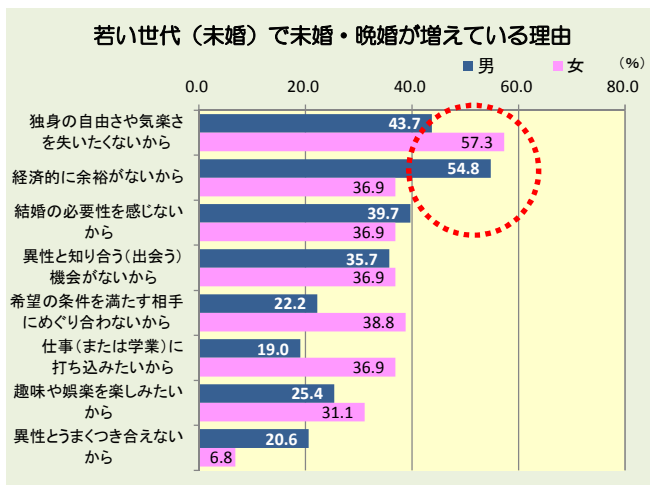


出典：総務省統計局『国勢調査報告』により算出。SMAM (Singulate mean age at marriage)は、人口動態統計の年齢別未婚率から計算する平均結婚年齢であり、次式により計算する。 $SMAM = (\sum Cx - 50 \cdot S) / (1 - S)$ 。ただし、Cxは年齢別未婚率、Sは生涯未婚率。生涯未婚率は、45～49歳と50～54歳未婚率の平均値であり、50歳時の未婚率。

3. 若者が社会的に自立し、幸せに生きていくために④

若い男女の結婚への意識

若い世代が結婚しない理由としては、男性では「経済的に余裕がないから」が、女性では「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」が最も高くなっている。



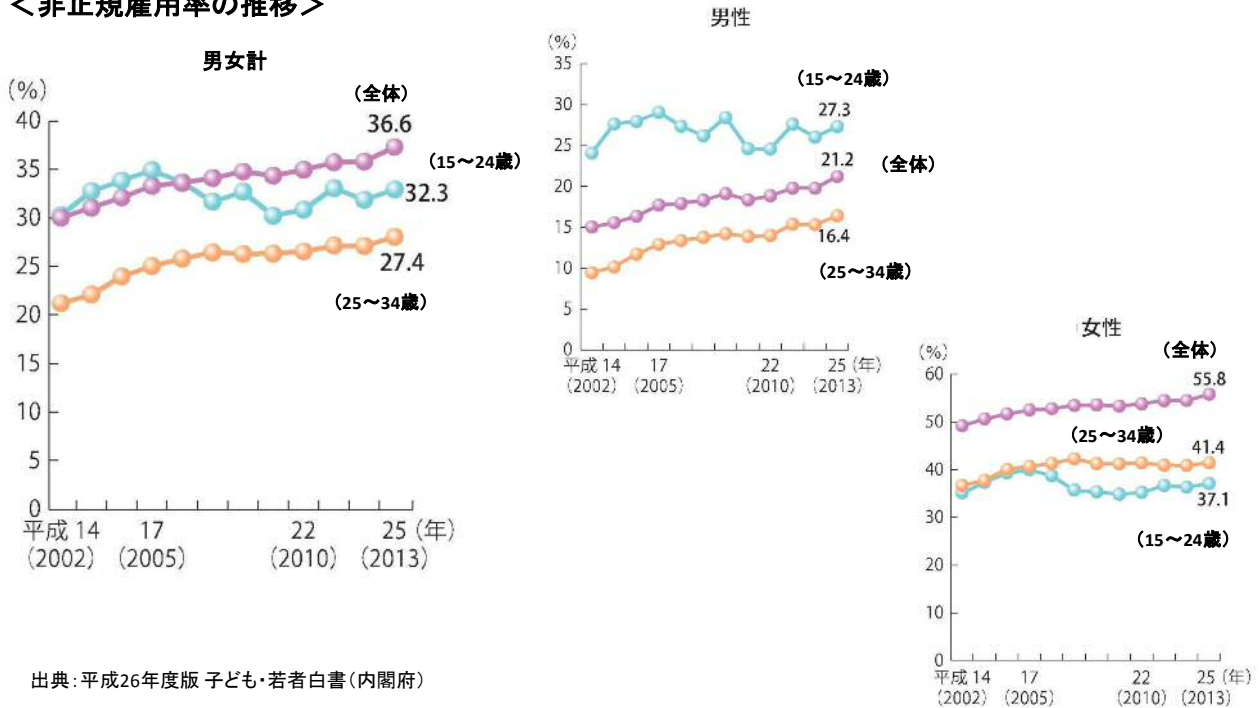
出典：家族と地域における子育てに関する意識調査(内閣府)

3. 若者が社会的に自立し、幸せに生きていくために⑤

若年層の非正規雇用率

- 非正規雇用率は、平成21(2009)年から緩やかな上昇傾向が続いている。
- 女性の非正規雇用率は、男性と比べ、相当高い水準にある。

<非正規雇用率の推移>



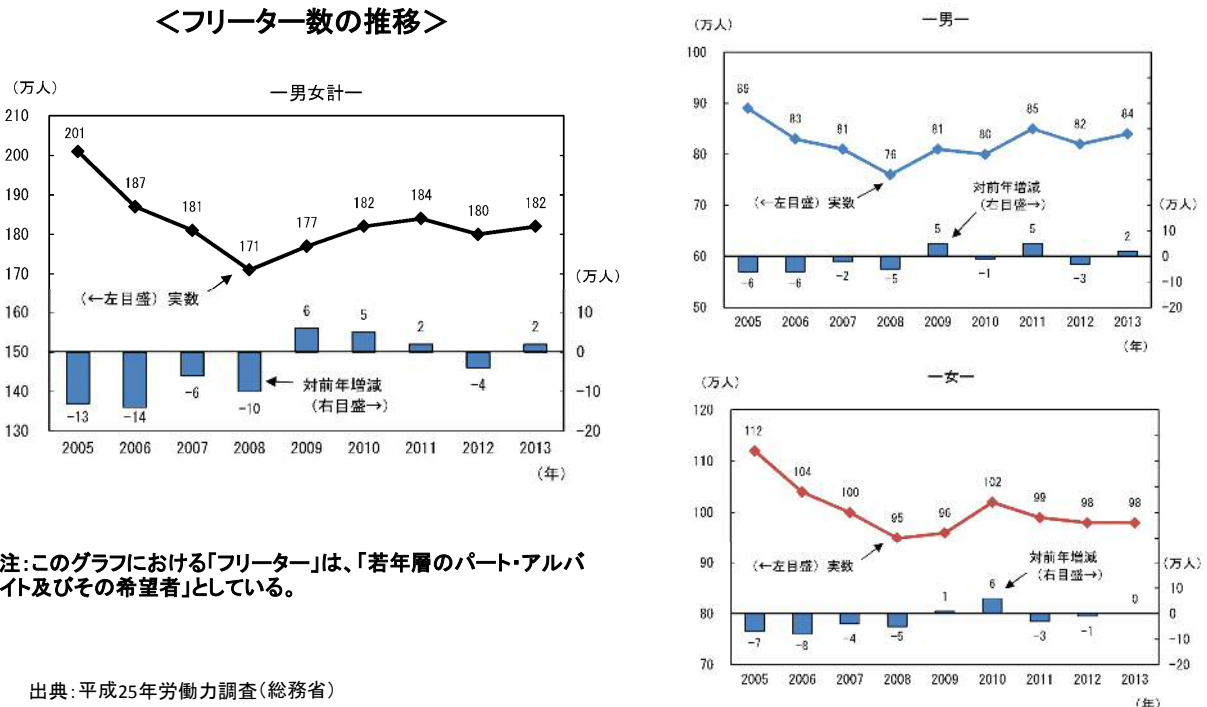
43

3. 若者が社会的に自立し、幸せに生きていくために⑥

若年層のフリーターの状況

- フリーターは2013年平均で182万人となり、前年に比べ2万人の増加となっている。
- 男女別では、男性が84万人と2万人の増加、女性は98万人と前年同数となっている。

<フリーター数の推移>



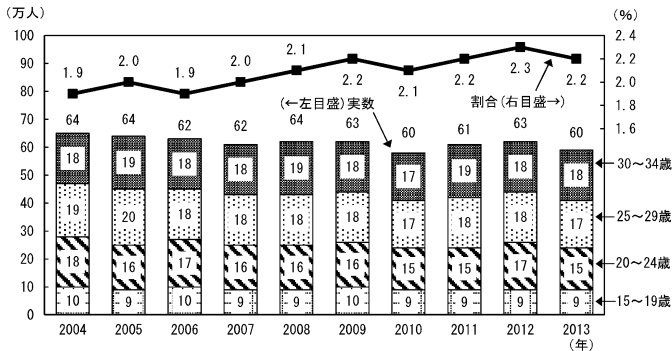
44

3. 若者が社会的に自立し、幸せに生きていくために⑦

若年無業者(ニート)の状況

- 若年無業者は2013年平均で60万人となり、前年に比べ3万人の減少となっている。
- 就業を希望しない理由としては、病気・けがのためが最も多くなっている。

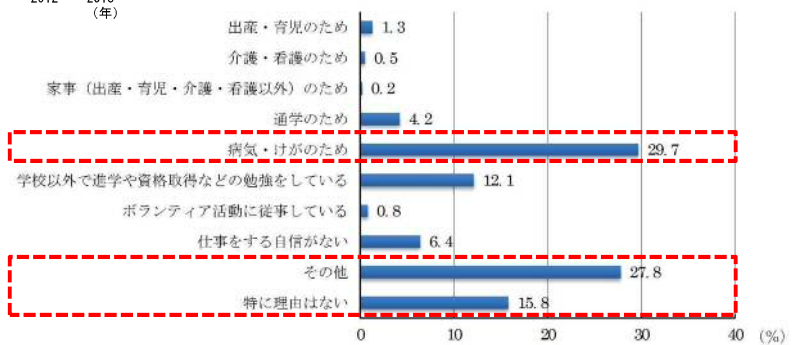
＜若年無業者数の推移＞



注:このグラフにおける「若年無業者」は、15～34歳の無業者で「家事も通学もしていない者」としている。

出典:平成24年就業構造基本調査(総務省)

＜若年無業者が就業を希望しない理由＞



3. 若者が社会的に自立し、幸せに生きていくために⑧

ひきこもりの状況

- 広い意味での「ひきこもり」は、69.6万人と推計されている。
- ひきこもりになったきっかけは、仕事や就職に関するものが多くなっている。

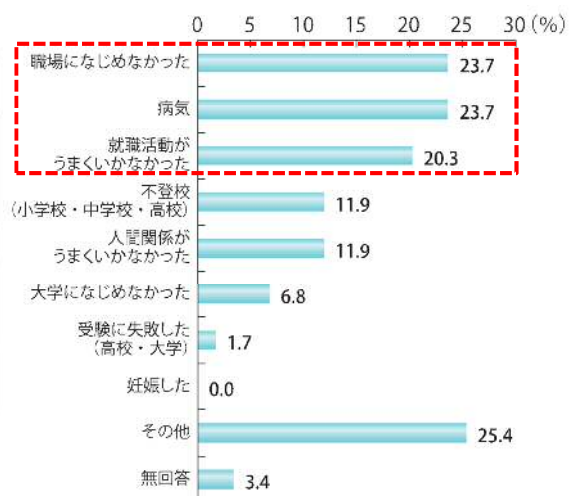
＜ひきこもりの定義と推計数＞

	有効回収数に占める割合 (%)	全国の推計数 (万人)
ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	0.40	15.3
自室からは出るが、家からは出ない	0.09	3.5
自室からほとんど出ない	0.12	4.7
ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する	1.19	準ひきこもり 46.0万人
計	1.79	広義のひきこもり 69.6万人

注:このグラフにおける「ひきこもり」は、内閣府の「若者の意識に関する調査(ひきこもりに関する実態調査)」の結果に、総務省「人口推計」を乗じたものとしている。

出典:平成26年度版子ども・若者白書(内閣府)

＜ひきこもりになったきっかけ＞



(出典)内閣府(2010)「若者の意識に関する調査(ひきこもりに関する実態調査)」

3. 若者が社会的に自立し、幸せに生きていくために⑨

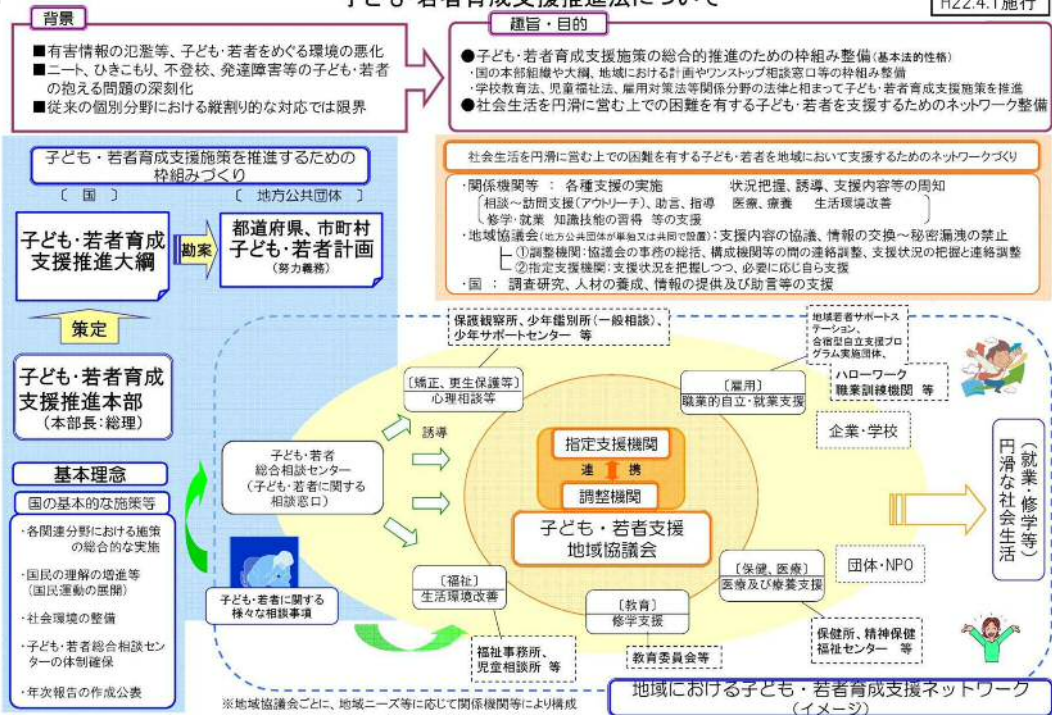
子ども・若者の育成支援の推進

ニート、ひきこもり、発達障害など支援が必要な子ども・若者や家庭が増加しており、平成22年から施行された「子ども・若者育成支援推進法」の着実な推進が求められている。

出典：内閣府HP

子ども・若者育成支援推進法について

H22.4.1施行



47

3. 若者が社会的に自立し、幸せに生きていくために⑩

本市における子ども・若者の育成支援

本市でも、児童虐待や発達障害、不登校やひきこもりなど支援が必要な子ども・若者や家庭への相談や学習・就業支援、就労支援などを進めている。

川崎市 子ども・若者支援機関マップ

不登校・ひきこもり・学校関係・家庭問題・障害・仕事関係など子ども・若者とその家族の相談・支援に関わっている機関・団体を紹介します。

◇区役所による相談◇

- 川崎区役所(保健福祉センター)
 - 大師支所(地区健康福祉ステーション)
 - 田島支所(地区健康福祉ステーション)
 - 幸区役所(保健福祉センター)
 - 中原区役所(保健福祉センター)
 - 高津区役所(保健福祉センター)
 - 宮前区役所(保健福祉センター)
 - 多摩区役所(保健福祉センター)
 - 麻生区役所(保健福祉センター)
- 【①～⑨】子どもの養育・成長発達・障害・非行

◇児童相談所による相談◇

- 【幸区】川崎市こども家庭センター(中央児童相談所)【児童虐待、子どもの養育・成長発達・障害・非行】
- 【高津区】川崎市中部児童相談所【児童虐待、子どもの養育・成長発達・障害・非行】
- 【多摩区】川崎市北部児童相談所【児童虐待、子どもの養育・成長発達・障害・非行】

◇保健・福祉に関する相談◇

- 【川崎区】川崎市精神保健福祉センター(ひきこもり・思春期相談担当)【ひきこもり・思春期相談】
- 【川崎区】川崎市発達相談支援センター【発達障害等】

◇学習・就業支援に関する相談◇

- 【川崎区】川崎市教育委員会教育相談室【不登校・ひきこもり・いじめ・非行・学校関係等】
- 【幸区】総合教育センター(探親相談室)【不登校・いじめ・学校生活や学習等・教育全般に関する相談】
- 【高津区】総合教育センター(溝口相談室)【不登校・いじめ・学校生活や学習等・教育全般に関する相談】
- 【高津区】フリースペースえん【不登校児童・生徒・ひきこもりの若者の自立支援】
- 【高津区】教育活動総合サポートセンター【不登校・いじめ・非行・学習支援等】

◇雇用に関する相談・支援◇

- 【高津区】キャリアサポートかわさき【仕事関係】
- 【高津区】かわさき若者サポートステーション【仕事関係】

◇その他の相談◇

- 【高津区】川崎人権オンブズパーソン【いじめ・学校関係・家庭問題・その他】
- 【川崎区】横浜地方方法務局 川崎支局【いじめ・学校関係・家庭問題等】



KAWASAKI CITY 川崎市

出典：こども本部調べ

48

3. 若者が社会的に自立し、幸せに生きていくために

～若者が社会的に自立し、幸せに生きていくために～

家庭で できること	
地域で できること	
行政がや るべきこと	